

18. 感染症情報センター

センター長 岡部 信彦

概要

平成9年4月国立予防衛生研究所は「国立感染症研究所」と名称変更になり、それまでの感染症疫学部は発展解消し「感染症情報センター（初代センター長・井上栄博士）」が発足した。主な機能は、1)感染症サーベイランスデータの集計、感染症情報の収集、解析、その情報の国民への提供、2)外国の感染症機関との情報交換、3)感染症集団発生の疫学調査、およびそれを実行する専門家の養成、4)感染症予防制圧戦略の研究および提言、5)不明病原体に関する検索並びに研究、技術伝達、等である。

平成11年4月に施行された感染症法では、サーベイランスシステムの強化が示されている。同法に基づいた基本指針の中には患者発生状況サーベイランスと同様に病原体に関する情報の収集、分析及び提供と公開も必要であるとされている。感染症情報センター(IDSC)は、国のサーベイランス事業の中で中央感染症情報センターとして位置づけられ、地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て、感染症法に規定された1-5類感染症(平成15年11月1-5類に類型が変更された。それまでは1-4類感染症)を中心としたサーベイランスを行っている。病原体情報についてはWISH Net、IDSCホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)、病原微生物検出情報(IASR)を中心として、疾患の発生動向については感染症週報(IDWR: Infectious Disease Weekly Report)などを中心として、収集された情報の迅速な還元と公開を行っているところである。血清疫学調査としては、感染症流行予測調査事業の中でこれを行っている。このデータ等を基礎とし、感染症対策の重要な一角としての予防接種のあり方についてのエビデンスを求めることもIDSCの重要な業務である。

感染症発生への適切な対応の一環として実地疫学の重要性が理解されつつあるが、これにかかわる人材の育成は感染症危機管理対策上、極めて重要である。感染研では業務の一つとしてこの人材教育(実施疫学調査専門家養成コース(FETP))が行われているが、研修実施の主体はIDSCが行っている。

情報センターは現在以下の6室で分担し、業務研究を行っている。

第一室（感染症対策計画室：谷口清州室長）

国内外における感染症の流行、集団発生・異常集積時の疫学調査、感染症対策のための計画立案とそのための研究などを行っている。ことに積極的疫学調査、これに関わる感染症実地疫学専門家の養成を行っている(Field Epidemiology Training Program)。院内感染対策も一室のテーマとしている。

第二室（感染症情報室：木村幹男室長）

地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て国内感染症サーベイランスデータの収集・分析、及びその結果の還元と提供及びそのための研究を行っている。感染症情報の還元、提供は、感染症週報(IDWR)、病原微生物検出情報(IASR)、感染症発生動向調査事業年報、感染症情報センターホームページなどによって、主に同室の業務として行われている。

第三室（予防接種室：多屋馨子室長）

感染症流行予測調査事業の一環として行われている血清疫学調査の立案と実施、現行予防接種の効果と副反応に関するモニタリング、これらの結果の公表と広く一般への情報提供、予防接種対象疾患の感染症として人に与える影響(disease burden)に関する調査研究、及び今後の我が国における予防接種の有用性に関する総合的研究を行っている。また感染症研究所業務として行われている国内血清銀行の管理運営を行っている。

第四室（病原診断室：事務取り扱い 岡部信彦センター長）

他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。全国衛生微生物協議会の病原微生物レファレンスセンターのうち、アデノウイルス、ノロウイルスのレファレンスセンターを担当している。

第五室（細菌研修室：伊藤健一郎室長）

細菌性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提

供を行っている。また国内外の関連機関と連携し、公衆衛生における細菌検査の技術向上・標準化等を支援している。公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象に細菌検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の研究などを行っている。

第六室（ウイルス研修室：木村博一室長）

ウイルス性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。国内外の関連機関と連携し、公衆衛生におけるウイルス検査の技術向上・標準化等を支援している。また、公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象にウイルス検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の開発研究なども行っている。

各室の業務、研究、作業は、独立した個別のテーマもあるが、その多くは各室のスタッフが、それぞれが重なり合い、協力し合いながらテーマ別に集合して取り組んでいる。国内・国外における感染症対策調査、対策案策定、種々の討議への参加、研修なども同様である。したがってそれぞれの業務研究等について各室別に表すのではなく、その内容ごとに情報センターの1年間の活動内容を記した。詳細については以下それぞれの項目別に記されている。

なお、岡部センター長は以下の委員の委嘱を国より受け、国における感染症対策検討の多くに参画している。その背景には、情報センターにおける業務・研究の結果があり、委員会等においてはこれらの結果に基づいた資料などを、多く提供している。

また同様に WHO の依頼による、専門委員等の委嘱もうけている。

- 厚生労働省健康危機管理調整会議委員
- 厚生労働省厚生科学審議会臨時委員（感染症分科委員、新型インフルエンザ対策ワーキンググループ委員長）
- 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（医療機器・体外診断薬診断部会員）
- 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（食中毒部会員）
- 厚生労働省疾病・障害認定審査会臨時委員（感染症・予防接種審査分科会委員長）
- 厚生労働省厚生科学審議会生活環境水道部会委員
- 内閣府食品安全委員会専門委員（肥料・飼料等専門調査会委員・緊急時対応専門調査会専門委員・微生物ウイルス専門委員）

- 農林水産省食料・農業・農村政策審議会臨時委員
- 厚生労働省地域保健対策検討会委員（ワーキンググループ委員長）
- 医薬品医療機器総合機構専門委員
- 厚生労働省健康局エイズ動向委員会委員
- 日本学会会議連携委員
- 厚生労働省厚生科学審議会臨時委員（健康危機管理部会委員）

業績

調査・研究

・感染症発生動向調査事業に関する研究

1. サーベイランスシステムの改善に関する研究

厚生労働省新興再興感染症研究事業として「効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論に関する研究（主任研究者 谷口清州）を組織し、感染症サーベイランスの在り方について研究を行い、後述のシステムの改善事業に対して技術的支援を行った。[谷口清州、大日康史、菅原民枝、中島一敏、重松美加、安井良則、多田有希、山下和予、岡部信彦]

2. 感染症発生動向調査に基づく注意報・警報システムおよび全国罹患数推計に関する研究

全数報告疾患のうち2類、4類および5類の一部について、1999年4月から2004年12月までの報告情報の解析を行い、日本公衆衛生学会、国際旅行医学会などで発表し、情報の還元および今後の改善課題について検討した。定点報告疾患の全国罹患数の推計の求め方についての検討および従来の検討方法の再評価、性感染症における定点設定の妥当性についての検討を行った。[多田有希、安井良則、重松美加、谷口清州、橋本修二（藤田保健衛生大学）、村上義孝（国立環境研究所）、永井正規（埼玉医科大学）]

3. 症候群サーベイランスの基礎的研究

症候群サーベイランスの基礎的研究として、一般用医薬品、外来受診時の症状、救急車搬送、救急外来初診時の症状、自衛隊駐屯地等広範な対象でその可能性を検討した。特に外来受診時における症状のサーベイランスでは、地方都市を中心に数力所の医療機関の協力を得て、地域的な感染症流行を探知するシステムを開発し、10月から全自動で稼働しており、その情報を保健所、県庁にも提供し、情報の早期の共有化に貢献した。また、院内感染の早期探知システムとしての症候群サーベイランスを全自動で8月から運用し、院内感染が広がる前に発

生阻止に貢献している。得られた成果は国内における症候群サーベイランスへの活用に止まらず、東南アジア諸国、あるいは中国や韓国に紹介されている。

[大日康史、菅原民枝、重松美加、谷口清州、岡部信彦]

4. アメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステム事業への参画および研究的解析

昨年度 2004 年度に、財団法人ヒューマンサイエンス振興財団若手研究者育成活用事業による CDC の院内感染対策部門へ派遣を受けて以来、本年度も引き続きアメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステムの改訂作業に協力した。また、手術部位感染に関する同システムに集積されたデータを用いて、日米の発生動向の相違や発生のリスク因子に関する検討を行なった。

[森兼啓太、Teresa Horan・Mary Andrus・Jonathan Edwards (CDC)]

5. 麻疹発生DBの構築・運用

茨城、千葉での麻疹流行を受けて麻疹疑い症例の登録を行う麻疹発生DBを構築、運用した。

[大日康史、菅原民枝、上野久美、多屋馨子、安井良則、西藤なるを、砂川富正、岡部信彦]

・パンデミック、バイオテロ、公衆衛生対策に関する研究

1. 新型インフルエンザのパンデミック対策に関する研究

(1) 数理モデルを用いて、新型インフルエンザの被害を予想し、公衆衛生的対応を評価、検討した。特に、首都圏、福岡県、仙台市において世界で最も精密なモデルを開発し、新型インフルエンザの流行拡大に関しての現実的なイメージを地図上で表現し関係者及びマスコミを通じて国民に提供した。(2)世界各国の指針、行動マニュアルなどの情報を収集、分析、評価し、国内の実践的パンデミック対策計画を確立する礎とし、厚生労働省の新型インフルエンザ行動計画策定に対して全面的に協力した。

[谷口清州、森兼啓太、中島一敏、大日康史、菅原民枝、田中政宏、安井良則、重松美加、宮城裕人]

2. バイオテロ対策の数理モデルの開発

数理モデルをバイオテロに使用される可能性のある感染症、特に天然痘と狂犬病に関して応用し、そこでの公衆衛生対応について事前的に評価した。またその結果を地図上で表現し、より現実的に被害の探知、地域的な拡

散を検討した。天然痘の数理モデルは天然痘対応指針の改訂の議論に提供した。

[大日康史、菅原民枝、谷口清州、岡部信彦]

3. バイオテロ対策指針の開発

「生物テロに使用される可能性の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究班」主任研究者(佐多徹太郎)における臨床小班とともに、臨床医のためのガイドラインを策定し、ホームページを開発した。

[谷口清州、松岡静香、佐多徹太郎(感染病理部)]

4. 感染症情報の発信に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 地域健康危機管理研究事業「健康危機管理情報の網羅的収集/評価および統合/提供に関する調査研究」(主任研究者:緒方裕光)の一環として、感染症の情報発信について検討した。サーベイランスなどにより得られた感染症情報を対策につなぐためには、正確で迅速な情報の発信は不可欠である。多くの人がメディアを通して情報を得ていることから、メディア(情報発信する人々)との適切なコミュニケーションが必要であり、この実践を行った。これにより、メディアやその情報を受け取る人々が求めている情報が何かを知ることでもできた。今後もよりよい方策を検討していく。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、多田有希、安井良則、田村優子]

5. バイオテロ防止におけるバイオリスク管理、教育、訓練の方法論に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「病原微生物の取扱におけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究」(主任研究者:杉山和良)の一環として、バイオテロにおいて利用される病原体保有施設に対する意図的破壊工作や盗難に限らず、意図的に病原体が持ち出されることを未然に防ぐバイオセキュリティとバイオセーフティの融合によるリスク管理における科学的なリスク評価、実効法制を含めた周辺環境を考慮した管理手法の導入、リスクコミュニケーションを含めた意識向上活動、研究活動への支障を最小限留める日常的活動の訓練などの効果的手法について各国の実態の情報収集と分析、翻訳、解説などによる情報の普及、バイオセキュリティにおける疫学情報の利用方法の提示、施設毎の自己診断ツールの改良などを行った。また、地方衛生研究所の技術研修におけるバイオセキュリティ概論のプログラムの試作を行

った。

[重松美加、安藤秀二(ウイルス第一部)、杉山和良(バイオセーフティ管理室)]

・感染症の疫学、統計等に関する研究

1. インフルエンザによる超過死亡の評価

人口動態調査の月別全死因死亡者数のデータから、インフルエンザ流行の我が国の人口動態に与える影響を、「感染研」モデルを用いてインフルエンザによる超過死亡を推定し検討した。

[大日康史、重松美加、谷口清州]

2. インフルエンザ関連死亡迅速把握に関する研究

16大都市から提供されるインフルエンザ関連死亡(インフルエンザ及び肺炎死亡)数を用い、「感染研モデル」と同種の超過死亡推定モデルを適用し、各都市毎の週単位の超過死亡を推定し、迅速な情報還元を行った。昨年度に引き続き、データ入手後3日以内のウェブによる還元を実現した。

[大日康史、重松美加、谷口清州、松岡静香、厚生労働省健康局結核感染症課、16大都市・特別区衛生主幹部局]

3. 中小規模施設での院内感染発生時の対応に関する研究

厚生労働科学特別研究事業「院内感染地域支援ネットワーク及び相談体制の改善・普及や、データベースおよびバックアップ体制の構築に関する研究(H16-医療-11)」において、「病院感染および病院内新興感染の制御のためのバックアップ体制に関する研究」分担研究班に参画し、院内感染やそのアウトブレイクの発生に際し支援を行う地域支援ネットワークや大学病院・研究機関・学会などの役割に関する研究を行った。

[森兼啓太、大久保憲(東京医療保健大学)、倉辻忠俊(国立国際医療センター)]

4. 手術部位感染の疫学に関する研究

日本環境感染学会の学会事業である JNIS (Japanese Nosocomial Infections Surveillance) の一環として、院内感染の中でも発生の影響が特に大きい手術部位感染に関して、医療機関で行われるサーベイランスのデータを集積し集計を行い、各施設へのフィードバックを実施した。さらに、手術部位感染のリスク因子に関する研究的解析を行い、学会報告した。

[森兼啓太、日本環境感染学会 JNIS 委員会]

5. 透析施設における C 型肝炎の伝播防止に関する研究

厚生労働科学研究班「透析施設における C 型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究」(主任研究者:東京女子医科大学・秋葉隆教授)の分担研究者として、世界における透析関連感染のデータベース調査や感染防止ガイドラインの調査を行なった。その知見に基づき、日本透析医学会などによる透析関連感染防止ガイドラインの改訂作業に協力した。

[森兼啓太、吉田真紀子、満田年宏(横浜市立大学)、操華子(国際医療福祉大学)]

6. リケッチア症サーベイランスの評価

新興・再興感染症研究事業「リケッチア感染症の国内実態調査および早期診断体制の確立における早期警鐘システムの構築」(主任研究者 岸本寿男、分担研究者 岡部信彦)により、熊本県、宮崎県の皮膚科医におけるつつが虫病、日本紅斑熱のサーベイランス認知度および、2005 年における診断・届出の現状を調査し、学会発表、および論文発表を行った。

[松井珠乃、佐藤弘、岡部信彦]

7. 医療機関の職員における麻疹予防対策の現状調査

厚生労働科学研究医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「ワクチンの安全性向上のための品質確保の方策に関する研究」(主任研究者 下田 智久、分担研究者 岡部信彦) および、「予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究」(主任研究者 岡部信彦)により、熊本県の医療機関の職員における麻疹予防対策の現状調査を行い、現場へ注意喚起をするとともに論文発表を行った。

[松井珠乃、中島一敏、大日康史、菅原民枝、多屋馨子、岡部信彦]

8. 乳幼児施設におけるインフルエンザの発生動向の調査研究について

乳幼児の集団生活施設における流行シーズンのインフルエンザ流行状況、インフルエンザ罹患後の経過、インフルエンザワクチンの接種状況等を明らかにすることを目的として、大阪府内 4 施設、愛媛県内 4 施設の合計 8 保育施設における、ワクチン接種状況に関する調査を実施し、加えてインフルエンザの罹患・発生状況の調査を行った。

インフルエンザ発生の鋭敏な指標として、施設内において発熱者のサーベイランスを行うことは、できる限りインフルエンザの発生を抑制することが望ましい、この

ような障害児施設内でのインフルエンザの集団発生を防止するためにも有用であると思われる。

[安井良則、近藤弘一、岡部信彦、谷口清州]

9. インフルエンザ脳症の発生報告について

感染症発生動向調査に基づいた 2005/06 シーズンの国内におけるインフルエンザの発生動向とインフルエンザ脳症の発生報告について、感染症発生動向調査による全国のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者発生報告結果と、地方衛生研究所及び検疫所からのインフルエンザウイルス分離報告結果、及び 2004 年 3 月から新たに 5 類全数把握疾患として急性脳炎の中での届出対象疾患となったインフルエンザ脳症の発生報告結果を集計・解析し、その関連性と現在のインフルエンザ脳症発生例の把握システムに関する課題について考察を行った。

[安井良則、多屋馨子、上野久美、岡部信彦、森島恒雄（岡山大学大学院小児医科学）]

10. 性感染症（STD）発生動向調査の評価と解析

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究（主任研究者 小野寺昭一）の分担研究として、岐阜県、千葉県、兵庫県、石川県で STD の全数把握を実施した。また、そこでの発生状況を現行の STD 発生動向調査で報告されている 5 疾患に関して発生動向調査と比較し、解析した。定点の妥当性、信頼性を検討した。

[岡部信彦、多田有希、大日康史]

11. 性感染症（STD）発生動向に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」（主任研究者：小野寺昭一）の一環として、感染症法に基づきサーベイランスが実施されている性器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖型コンジローマ、淋菌感染症（以上定点把握）及び梅毒（全数把握）の発生動向を解析した。また、定点把握疾患については、地域毎の定点数や診療科（産婦人科、産科、婦人科、泌尿器科、皮膚科、性病科）についての検討も行い、今後の定点設計の方法について考察を行った。

[岡部信彦、多田有希、宮城裕人、阿保満、鈴木智之、五十嵐正巳]

12. 感染症疫学情報の解析・評価に関する研究

特定の感染症を患者発生情報と病原体情報の両面から

総合的解析を行った。本年度中に「病原微生物検出情報」特集記事として掲載されたテーマは、2006 年 4 月号：麻疹・風疹、5 月号：HIV/AIDS、6 月号：腸管出血性大腸菌感染症、7 月号：カンピロバクター腸炎、8 月号：サルモネラ症、9 月号：B 型肝炎、10 月号：結核、11 月号：インフルエンザ、12 月号：ジフテリア、2007 年 1 月号：マラリア、2 月号：マイコプラズマ肺炎、3 月号：狂犬病である。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、徳永真里子、野地元子、木村幹男、多田有希、安井良則、岡部信彦、谷口清州、重松美加、多屋馨子、佐藤弘、伊藤健一郎、木村博一、井上栄、渡邊治雄（副所長、細菌第一部）、寺嶋淳・泉谷秀昌（細菌第一部）、倉根一郎・岸本寿男（ウイルス第一部）、脇田隆字・米山徹夫・鈴木哲朗（ウイルス第二部）、田代真人・小田切孝人（ウイルス第三部）、荒川宜親・新谷三春・高橋元秀・小宮貴子・佐々木次雄・見理剛（細菌第二部）、遠藤卓郎・大前比呂志（寄生動物部）、小林睦生（昆虫医科学部）、今岡浩一・山田章雄・井上智（獣医科学部）、佐多徹太郎（感染病理部）、森 亨・石井則久（ハンセン病研究センター）、山本直樹（エイズ研究センター）、中嶋建介（国際協力室）、山本茂貴（国立衛研）、三宅智・北島智子（企画調整主幹）、宮村達男（所長）、吉倉廣（元所長）、金成由美子・滝本浩司・高山研・三木朗・井上隆弘・仲庭裕司・小島三奈（厚生労働省）]

・予防接種ならびに予防接種で予防可能疾患における今後の感染症対策に関する研究

1. 水痘、帯状疱疹、ムンプスに関する研究

(1) 水痘、帯状疱疹、ムンプス重症化例に関する疫学研究

2004 年 1 月～2005 年 12 月の 2 年間に、国内で水痘、帯状疱疹、ムンプスに関連して入院あるいは死亡、水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンに関連して入院あるいは死亡した患者につき全国アンケート調査を実施した。2006 年度は、上記調査結果の回収、集計、解析を行った。

[多屋馨子、谷口無我、牧下大和、佐藤 弘、上野久美、荒木和子、森兼啓太、吉川哲史（藤田保健衛生大学小児科）、中野貴司（国立病院機構三重病院）、庵原俊昭（国立病院機構三重病院）、堤 裕幸（札幌医科大学小児科）、浅野喜造（藤田保健衛生大学小児科）、神谷 齊（国立病院機構三重病院）、岡部信彦]

(2) 水痘ワクチンに伴う水痘-帯状疱疹ウイルスに対する血清抗体価陽性率の推移に関する研究

水痘ワクチン導入前、導入直後、近年にわけて、水痘-帯状疱疹ウイルスに対する抗体保有率を年代別に検討し、水痘ワクチンの日本の水痘疫学への影響について検討した。

[上野久美、多屋馨子、佐藤 弘、岡部信彦]

2. 麻疹、風疹ワクチンに関する研究

(1) 麻疹の地域流行の原因ならびに今後の対策に関する研究

茨城県南部、千葉県を中心として発生した麻疹の地域流行に際して、自治体への対策支援に加えて、麻疹の流行に関する調査研究を行った。

[松井珠乃、阿保 満、鷲見 宏、多屋馨子、上野久美、中島一敏、安井良則、岡部信彦]

(2) 2006 年度第 2 期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査 - 2006 年 10 月 1 日現在中間評価 -

2006 年 4 月 1 日から、麻疹風疹混合ワクチン(以下、MR ワクチン)を用いた定期接種が可能となり、同年 6 月 2 日からは麻疹及び風疹ワクチンの 2 回接種が定期接種に導入、開始された。我々は、全国の市町村(特別区)の現状を把握するために、初年度の第 2 期麻疹・風疹ワクチン接種率に関する調査を 2006 年 10 月 1 日現在と、2007 年 3 月 31 日現在の 2 回にわたり、全国 1,843 市町村(特別区)を対象とした往復はがきによる質問票調査を計画・実施した。1 回目の中間評価として実施した 2006 年 10 月 1 日現在の第 2 期麻疹・風疹ワクチン接種率では、有効回答数 1,455 (78.9%)で、2006 年 10 月 1 日現在の第 2 期対象者における麻疹を含むワクチンの接種率は 29.4%、同様に風疹を含むワクチンの接種率は 29.9%であった。2006 年 10 月 1 日現在の第 2 期麻疹・風疹ワクチンの接種率は全国的に非常に低く、2 回接種開始初年度の接種率は、積極的な接種勧奨を実施しなければ、低いまま次年度を迎えることが懸念された。2007 年 5 月に、2007 年 3 月 31 日時点の今年度最終評価の実施を予定した。

[上野久美、多屋馨子]

(3) 麻疹ウイルスの体外診断薬に関する標準品に関する研究

厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業(竹森班)の研究協力として、麻疹抗体検出キットの品質管理に関する研究を行った。麻疹抗体測定において迅速で簡便なゼラチン粒子凝集反応(PA 法)及び酵素免疫法(EIA 法)による成

績を比較した。その結果、両方法にほとんど差はみられず、また中和抗体との相関性が認められている PA 抗体価を基準とした場合の EIA 法における測定値の評価の目安を陽性的中率から算出した。

[佐藤 弘、多屋馨子]

3. 小児における急性脳炎、脳症の病態、診断、治療に関する研究

(1) 感染症発生動向調査に基づく急性脳炎発生動向ならびに特徴に関する研究

2005 年第 1 週～第 52 週、2006 年第 1 週～第 52 週に診断された急性脳炎全数報告データを時、場所、人の要素に関して分析し、発生動向推移や症例の特徴等を検討した。症例は、2005 年 188 例(男性 108 例、女性 80 例)、2006 年 159 例(男性 80 例、女性 79 例)で、16 歳未満の報告数は 2005 年 109 例(58%)、2006 年 105 例(66%)であり、中でも 2005 年は 1 歳児が 20 例と最も多く、2006 年は 0 歳児と 1 歳児がそれぞれ 17 例と同数で最多であった。2 年間で 1 例の報告もない自治体もあり、特定の医療機関からのみの報告に偏っている可能性が否定できないことなどから、今後、更なる全数報告の啓発と、積極的な病原体検索の推進・支援が必要と考えられた。

[上野久美、多田有希、安井良則、多屋馨子、岡部信彦]

(2) 沖縄県における急性ウイルス性脳炎・無菌性髄膜炎強化サーベイランス

2005 年に引き続き、日本脳炎ウイルス感染症の積極的な把握を目的とし、感染症法に基づく国の感染症発生動向調査の強化と位置づけ、沖縄県全県的な急性脳炎及び無菌性髄膜炎の強化サーベイランスを構築した。本研究で構築されたネットワークは日本脳炎ウイルス感染症の把握に非常に有益であり、さらにそれ以外の感染症に対する危機管理上も有益である。今後も、改善、強化しながら継続する必要があると考えられた。

[中島一敏、多屋馨子、佐藤 弘、上野久美、伊礼壬紀夫(沖縄県福祉保健部健康増進課)、田盛広三(沖縄県福祉保健部健康増進課)、大野 惇(沖縄県衛生環境研究所微生物室)、只野昌之(琉球大学医学部病原微生物分野)、岡部信彦]

4. ワクチンの製造株の品質管理に関する研究

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業(加藤班)の分担研究 3 年目として実施した。シードロットシステム導入後の品質管理に関する臨床・疫学的検討方法として、今年度は、血清疫学調査を用いて

検討した。シードロットシステム導入後の臨床・疫学的調査として、本方法を用いることにより、免疫獲得状況を把握し、ワクチンの品質管理に用いることが可能と考えられた。

[上野久美、多屋馨子、佐藤弘、岡部信彦]

5. DPT ワクチン接種間隔に関する研究

松山市、金沢市、堺市、牛久市、西宮市医師会等との共同で、DPT ワクチン接種間隔に関する検討を行った。3 - 8 週間隔をすぎて接種している者の割合が多く、8 週間を過ぎると任意接種となる行政措置を実施すると、接種率が減少する可能性が高く、検討が必要である。

[多屋馨子、上野久美、安井良則、近藤弘一(松山市)、越田理恵(金沢市)、藤井史敏(堺市)、本多めぐみ(牛久市)、西本潤司(西宮市医師会)]

6. ワクチンの需要予測

ワクチンの安定供給を目的として、毎年インフルエンザワクチンの需要予測を行っている。また、ワクチン需給予測プログラム開発事業において MR2 回接種制度移行に伴う麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの定期接種の中止の麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの需要予測を行い、予防接種行政に貢献した。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

7. ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析

ワクチン予防可能疾患における予防接種の費用対効果分析を広範囲に行っている。対象は、インフルエンザ、水痘、デング熱と多岐にわたる。インフルエンザに関しては、高齢者における予防接種公費補助の効果および抗ウイルス剤の費用対効果について検討した。水痘に関しては、松本及び大阪での流行に関して、ワクチンの有効性、ワクチン不全、軽症化も含めて検討した。また、化学や環境等幅広い費用対効果分析を行っているリスク研究会において、医療・公衆衛生分野を代表してその研究状況、政策への応用について報告し、そのアプローチの違いについて検討、研究交流を行った。また、環境省の懇談会においてデング熱に対するワクチン需要からその疾病負担を予測した。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

8. インフルエンザ予防接種の政策評価

厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「インフルエンザをはじめとした、各種の予防接種の政策評価に関する分析疫学研究」研究班（主任研究者：廣

田良夫）の中島一敏分担研究班の研究の一環として、以下の調査・研究を実施した。

2005 年沖縄県で夏期のインフルエンザ流行が確認されたのを受けて、2006 年全国の夏期におけるインフルエンザ流行の有無に関して、感染症発生動向調査データを用いて検討した。全ての都道府県で 2005/06 冬期のインフルエンザ流行の後、14 ~ 15 週まで急速に報告症例は減少したが、その後多くの道府県において症例数の増加が確認された。16 週以降の流行株は冬期と異なり、殆どが B 型であった。1/定点・週以上の小流行が、6 月には 17 道県で、7 月には 2 県で報告された。6 月以降のインフルエンザ活動が最も大きかったのは沖縄県で、続いて北海道・北東北であった。夏期流行の原因は不明であるが、ワクチン接種半年以降の効果が不確定であることから、今後の注意深い監視が必要と考える。

[中島一敏、安井良則、廣田良夫（大阪市立大学大学院公衆衛生学）]

9. 熱帯病・寄生虫症治療のための国内未承認薬の確保・供給

平成 16 年度から開始された創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業（その後は、政策創薬総合研究事業「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬の輸入・保管・治療体制の開発研究」班（主任研究者：名和行文）の主要な活動として、熱帯病や寄生虫症に対する治療薬剤で、国内で認可されていないが必要なものを許可を得て輸入し、全国 21 ケ所の保管機関に配付し、それらの機関を通じて薬剤入手を可能にする体制を構築し、運営してきた。そして、これらの国内未承認薬へのアクセスを容易にすることを目的に、研究班のホームページを充実させた。また、平成 18 年度にはヒューマンサイエンス振興財団より研究成果等普及啓発事業費を得て、東京大学医科学研究所において市民公開講座「海外渡航での感染症のリスクに備えるには？」を開催した。

平成 14 年度に発行した「寄生虫症薬物治療の手引き 2003 年改訂第 5 版」については、その後数回にわたり小規模な改訂を行い、研究班のホームページから PDF 版でダウンロードできるようにしたが、平成 19 年 1 月には従来の著者の大幅な見直しを行い、「寄生虫症薬物治療の手引き 2007 年改訂第 6.0 版」として印刷版および PDF 版を発行した。これは、日本寄生虫学会、日本臨床寄生虫学会、日本感染症学会の会員など、本分野に関係する人々に広く配付した。

[木村幹男]

10. トラベルワクチンの適切な接種方法に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者:尾内一信)の一環として、渡航者への適切なワクチン接種を含めた予防啓発や診療に役立てる目的で、感染症法の対象疾患のうち、ワクチンで予防可能な11疾患の国外感染例の報告状況を解析した。さらに、国際観光振興機構が発表している国別日本人渡航者数から、日本居住者の渡航地別罹患率の算出を行った。
[岡部信彦、多田有希、上野久美、多屋馨子]

11. トラベルワクチンで予防できる疾患の認知状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者:尾内一信)の一環として、最近渡航を経験した者、もしくは、渡航を予定している者を対象に、ワクチンにより予防可能な12疾患の認知状況及び感染症情報の入手方法についてアンケート調査を実施し、ワクチン接種を含む予防策について啓発を行うべき対象者や方法を検討した。この結果等を踏まえ、当該研究班では、次年度に、予防啓発のためのHP及びパンフレットを作成する予定である。
[岡部信彦、多田有希、鈴木智之、菅原民枝、大日康史]

12. 海外在留邦人のワクチン接種および罹患状況に関する調査

厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」(主任研究者:尾内一信)の一環として実施された、JICA派遣者および在留邦人を対象に実施されたアンケート調査結果の集約および解析に技術的支援を行った。
[重松美加]

・病原体等の研究

1. エンテロウイルスの病原性に関する研究

エコー16株をモデルにエンテロウイルスの病原性に関する研究を行った。最近の流行株と標準株との性状、および遺伝子配列特に5'UTR、3'UTRの違いを調べた。
[荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

2. 発疹症の病因ウイルスの同定

小児における流行性発疹症の病因ウイルスの同定を行った。a. 保育園における流行例:発熱および発疹を主症状とする1園児の糞便を検索した結果コクサッキーA9

のウイルスゲノムが検出された。b. 手足口病:発疹症状が激しい患者であり、また検査センターで同定不能であった検体を調べた結果、コクサッキーA16のウイルスゲノムが検出された。標準株との相同性が低い株であった。
[荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

3. ポリオワクチン接種後のウイルスの排出

初回OPV接種後のポリオウイルス(PV)の排出を血清型別にreal-time PCRで調べた。OPV接種した一幼児(1歳6か月)の糞便を接種前日から35日後まで採取し、対象とした。ウイルスの排出は接種後1日から始まり、7-9日をピークとし、その後急速に減少した。PV2型が最も優位であった。15-24日の排出は見られず、また25日以降の排出は断続的であったが、排出は35日まで続いた。PV1,3型は接種後2-7日に少量の排出があった。調査期間中に、軽度の気道症状および発熱等があり、糞便からアデノウイルス2型を検出した。アデノウイルスの排出量をreal-time PCRで調べた結果、排出期間はOPV接種後14日をピークとした7-23日であり、臨床症状と一致していた。
[荒木和子、多屋馨子、松野重夫、岡部信彦]

4. C型肝炎ウイルス(HCV)複製に関与する宿主因子の同定と機能解析

HCVの複製及び感染性に重要であるNS3と結合する宿主因子を単離した。単離した宿主因子は、小胞体とゴルジ体間の輸送に関与していることが既に報告されており、HCVの複製に重要な機能を果たすことが示唆された。NS3と結合する宿主因子は免疫沈降法により直接的な結合が認められた。また、siRNAによる細胞内HCV複製の阻害効果が得られた。同定した宿主因子による感染性への影響をIFH1株を導入したヒト肝癌細胞を用いて、Taq-manRT-PCR法およびCore-ELISA法で検討した。
[浜本いつき、村上恭子・勝二郁夫(ウイルス第二部)]

5. ロタウイルスの中枢神経系合併症(脳髄膜炎)に関する研究

ロタウイルスに合併する脳炎や脳脊髄炎の病態には不明な点が多い。今回、G1P[8]ロタウイルス胃腸炎に合併した脳脊髄炎患者から検出したウイルスについて、病原性に強く関与するといわれるVP4とVP7遺伝子に関する解析を行った。その結果、両遺伝子の特定の場所にアミノ酸置換が見られ、この置換が脳炎などの病態に関与している可能性が示唆された(Scand J Infect Dis., in press)。
[木村博一、多屋馨子、谷口清州、岡部信彦、後藤珠子・

桃井真理子（自治医科大学小児科）、大金映子（栃木県保健環境センター）]

6. 胎便吸引症候群(Meconium Aspiration Syndrome, MAS)と血清サイトカインに関する研究

胎便吸引症候群（MAS）は、重篤な肺炎・肺障害を引き起こすことが知られているが、これらの病態には不明な点が多い。そこで、MAS 児における血清サイトカインプロファイルに関する研究を行った。その結果、TNF- α 、IL-1 β のような炎症性サイトカインとある種のケモカイン（IL-8、MIP-1 β ）が有意に MAS 児血清で上昇していることが明らかになった（Pediatrics, in press）。

[岡崎薫・西田朗（東京都立八王子小児病院新生児科）、野田雅博（ウイルス第三部）、加藤政彦（群馬県衛生環境研究所）、谷口清州、木村博一]

7. High mobility group box-1 (HMGB-1)と新生児感染症に関する研究

HMGB-1 は、感染症のようなストレスに対し、種々の免疫細胞などから産生され、炎症性サイトカインを誘導する。そこで、新生児期における種々の感染症児の血清中 HMGB-1 に関する研究を行った。その結果、仮死児あるいは G 群溶連菌のような細菌感染症に対し、出生児早期に、より有意な血清中の HMGB-1 の上昇が見られることが明らかになった（Neatology, in press）。

[岡崎薫・西田朗（東京都立八王子小児病院新生児科）、野田雅博（ウイルス第三部）、加藤政彦（群馬県衛生環境研究所）、木村博一]

8. RS ウイルス (RSV) と好酸球顆粒蛋白による気道上皮細胞障害に関する研究

RSV は、急性呼吸器感染症のみならず、感染喘息を引き起こす病原として認識されている。RSV による感染喘息は、遅延型発作の主な原因となる好酸球と密接な因果関係があることが推察されるが、その因果関係には不明な点が多い。そこで、RSV 感染気道上皮に対する好酸球顆粒蛋白の細胞障害に関する研究を行った。その結果、RSV 感染気道上皮（A549 細胞）は非感染細胞に比し、有意に好酸球顆粒蛋白による細胞障害が生じることが明らかになった。

[木村博一、秋山美穂、石岡大成・加藤政彦（群馬県衛生環境研究所）]

9. 麻疹ウイルスの分子疫学に関する研究

2006/07 シーズンにおいて、主に関東地区を中心に比較的大きな麻疹の流行が発生した。そこで、群馬県で検出された麻疹ウイルスの N（nucleoprotein）遺伝子に関する分子疫学解析を行った。その結果、群馬県を含む関東地域で検出されたほとんどの麻疹ウイルスの遺伝子型は D5 型で、非常に遺伝学的に相同性が高いことが明らかになった。

[森田幸雄・加藤政彦・小澤邦壽（群馬県衛生環境研究所）、野田雅博（ウイルス第三部）、多屋馨子、安井良則、岡部信彦、木村博一]

10. 新規な方法によるウイルス等の微生物除去・殺滅法の開発に関する研究

炭素繊維電極やオゾンによるインフルエンザウイルスやネコカリシウイルス（ノロウイルスの代用ウイルス）に関する新規かつ効果的な除去・殺滅法の開発を行った。

[小澤邦壽・加藤政彦（群馬県衛生環境研究所）、井関正博・鈴木大輔（三洋電機株式会社）、木村博一]

11. カキのノロウイルス汚染と食中毒事件発生に関する疫学的解析

内閣府食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「生食用カキに起因するノロウイルスリスク評価に関する研究」（主任研究者 西尾治）により、平成 18 年度に群馬県および山口県で発生した食中毒事例について疫学解析を行った。カキ関連事例以外の患者及び従業員から検出された Genogroup II の遺伝子型はすべて GII/4 であり、人から人への感染の可能性が示唆された。

[木村博一、西尾治、西田知子・岡本玲子（山口県環境保健研究センター）、吉澄志摩（北海道立衛生研究所）、森田幸雄（群馬県衛生環境研究所）、荒川美果（栃木県保健環境センター）]

12. 輸入食肉の E 型肝炎ウイルス汚染状況調査に関する研究および群馬県における野生イノシシおよび肥育豚の E 型肝炎ウイルス感染状況

厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業「輸入生鮮魚介類および動物生肉のウイルス汚染のサーベイランスに関する研究」（主任研究者 西尾治）により本研究を実施した。E 型肝炎ウイルス汚染に関するサーベイランスを目的とし、輸入生肉 26 検体の HEV 遺伝子検出を行ったところ全ての検体において検出されなかった。また、群馬県内の野生イノシシおよび肥育豚の HEV の浸潤状況を把握する目的で、血清中の抗 HEVIgG 抗体検査および HEV 遺伝子検査を実施した

ところ野生イノシシおよび肥育豚は一定頻度で HEV を保有していることが判明した。

[木村博一、坂野智恵子・塩野雅孝・信澤敏夫（群馬県食肉衛生検査所）、森田幸雄・小沢邦壽（群馬県衛生環境研究所）、壁谷英則・丸山総一（日本大学）]

13. 輸入食品のウイルス汚染状況に関する研究

厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業「輸入生鮮魚介類および動物生肉のウイルス汚染のサーベイランスに関する研究」(主任研究者 西尾治)により、二枚貝のウイルス汚染状況を調査し、安全性を評価するための基礎データの蓄積を目的とした。主に中国、韓国から輸入された二枚貝などについて、ノロウイルス、A型肝炎ウイルスの汚染状況を調べた。中国産二枚貝に汚染度が高い傾向が認められた。HAVはすべて陰性であった。

[西尾治、田中俊光(千葉市食品衛生検査所)、木村博一、秋山美穂、菊池正悟(愛知医科大学公衆衛生学)]

14. 腸管病原性大腸菌(EPEC)の研究

日本とタイで分離された55株のEPECのマイクロコロニー形成に関与する*bfpA* 遺伝子と自己凝集能を調べた。タイ株で新しい遺伝子型が見つかり、1種類増えて6種類になった。タイの分離株は、標準株と同じ2型及び3型、6型が多く、自己凝集能は非常に強かった。一方、日本の分離株は1型と4型が多く、自己凝集能は一部を除いて弱く、同じ典型的EPECだが病原性が弱いと思われた。

[飯田真里子、伊藤健一郎、Orn-Anong Ratchtrachenchai(タイ国保健衛生研究所)、山崎貢(愛知県)、八柳潤(秋田県)、成松浩志(大分県)、鈴木理恵子(神奈川県)、倉園貴至(埼玉県)、蛭田徳昭(横須賀市)、磯部順子(富山県)、勢戸和子(大阪府)、金子通治(山梨県)、河野喜美子(宮崎県)、岡村登(東京医科歯科大学)]

15. 旅行者大腸菌下痢症の調査

名古屋検疫所中部空港検疫所と共同で海外渡航者下痢症における大腸菌下痢症について調査した。血清型と病原因子を調べた。旅行者下痢症といわれている ETEC の他に、凝集性付着大腸菌及び EAST1 単独保有大腸菌が多く分離された。

[伊藤健一郎、重松美加、飯田真里子、熊谷則道・原田誠・一戸邦彦・久世敏輝・吉澤慎悟・橋本迪子(名古屋検疫所中部空港検疫支所)]

16. 2類感染症の発生状況とリスクファクターに関する研究

赤痢を中心に、コレラ、腸チフス・パラチフスについて、国内事例発生の際に、標準化された調査票を活用し九州・山口県地区自治体で積極的疫学調査を行った。赤痢患者数(2006年第1週～第48週)は438例、国内発生数92例で大半がソネネ菌であった。九州・山口県地区の患者数は62例で、国内発生は6件あった。そのうち3件で標準調査票による調査が行われた。

上記感染症の推定原因食品を10年前まで遡り邦文誌から検索した。市販の生鮮野菜18種類、計103検体について調査した。

[伊藤健一郎、飯田真里子、多田有希、松崎充宏(日本海事検定協会食中毒チーム)、九州山口地区19自治体担当者、岡部信彦]

サーベイランス業務

・感染症発生動向調査事業の実施および情報の還元

1. 感染症発生動向調査(患者情報)全国データの集計・解析・還元

平成11年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成15年11月改正法施行、平成17年4月改正法施行)に基づき、対象疾患を診断した医師、保健所、地方感染症情報センター(都道府県、政令市に設置)と連携し、感染症発生動向調査を実施している。

感染症情報センターは中央感染症情報センターとして、全数把握疾患及び週単位定点把握疾患については毎週1回、月単位定点把握疾患については毎月1回、全国データを集計し、各自治体に還元している。また、データの内容の確認及び解析を行い、感染症週報(IDWR)や病原微生物検出情報(IASR)として情報を公開するとともに、得られた情報を地方自治体と連携して必要な感染症対策へつないでいる。

[木村幹男、多田有希、安井良則、佐藤 弘、中里篤、加藤信子、大竹由里子、松岡静香、FETP 研修生7期&8期、松井一乃、中島一敏、大山卓昭、岡部信彦]

2. 感染症週報の作成・発行

平成11年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成15年11月改正法施行、平成17年4月改正法施行)の主旨のもとに、感染症週報の発行を継続しており、当感染症情報センターのホームページ上にPDF版とHTML版とで掲載している。

感染症週報には「発生動向総覧」以外に、「注目すべ

き感染症」としてその時々で問題となる感染症を 1~2 件取り上げ、詳細な解説を行い、「病原体情報」として、その時々で問題となる感染症の患者からの病原微生物検出状況を掲載している。

また、「速報」においては、主に地方衛生研究所から投稿される、国内で問題となったアウトブレイクに関する最新の記事、個々の疾患の発生動向のまとめなどを掲載し、成田空港検疫所の協力で「海外感染症情報」のコーナーを設けて、最新の海外感染症に関する記事を紹介し、「感染症の話」においては所内外の協力を得て、感染症法に規定された疾患、あるいはそれ以外の疾患も取り上げて解説を行い、「読者のコーナー」においては、外部からの問い合わせのあった質問や投稿などを多くの読者にも公開している。

[岡部信彦、木村幹男、多田有希、安井良則、森兼啓太、佐藤弘、谷口清州、多屋馨子、山下和予、赤塚昌江、徳永真理子、石井俊也(成田空港検疫所)、大竹由里子、松岡静香、加藤信子、中里篤、FETP 研修生 7 期 & 8 期、松井一乃、中島一敏、大山卓昭、上野久美、田中政宏、滝本浩司(厚生労働省結核感染症課)]

3. 病原体情報の収集と月報・年報の作成

病原微生物検出情報事務局において、病原体情報センター業務として、オンラインによる報告票の確認、問い合わせ、情報ファイル作成、作表、月報および年報の作成、配布に関する一連の作業が継続的に実施された。

(1) 情報処理：2006 年 1 月 - 2006 年 12 月の病原体検出報告数は、病原菌検出報告(3A:地研・保健所)は 8,575 件、病原体個票は病原菌が地研・保健所 3,154、検疫所 2,504 件、ウイルス(リケッチア、クラミジアを含む)が地研 17,235 件、検疫所 6 件、集団発生病原体票は病原菌が地研 209 件、検疫所 48 件、ウイルスが地研 1,254 件、ヒト以外からの病原体検出票は病原菌が地研 338 件、ウイルスが 11 件であった。また、感染性腸炎研究会による都市立感染症指定医療機関からの感染性腸炎患者調査票 461 件の報告を受けた。

(2) 月報の編集：本年度中に病原微生物検出情報月報が 12 号(第 27 巻)および第 27 巻索引が編集・発行された。

また、インターネットを介して毎月、病原微生物検出情報が国内外に提供された。

(3) 年報の編集：病原体情報に関する年報は、欧文による 2002 年年報が、Japan J. Infect. Dis., 2003 Vol.56 Supplement として編集・発行された。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、野地元子、徳永真理子、木村幹男、岡部信彦]

4. インターネット等による病原体情報の提供

(1) 病原体情報報告機関に対して、速報を還元するために WWW-WISH の個別情報システム(2006 年 5 月以降は新しい NESID の病原体検出情報システム)の還元情報速報閲覧のページに新しいデータのアップロードを毎日行った。

(2) IDSC ホームページの「病原微生物検出情報」のページに、オンラインで随時報告されるデータの追加・変更を反映させた速報グラフを掲載した(2006 年 5 月以降、新しい NESID の病原体検出情報システムで作成される定型帳票のグラフと集計表については毎日更新)。地方衛生研究所などからの速報記事を随時掲載した。また、累積データに基づく統計表とグラフおよび病原体名、疾病名から検索できる月報特集記事索引を毎月作成し更新・掲載した。

(3) インフルエンザシーズン中、ウイルス第三部へのインフルエンザウイルス情報の転送と、WHO の FluNet への日本の週別型別分離数データのアップロードを毎週行った。

(4) 地方衛生研究所と検疫所の検査情報担当者メーリングリストを更新し、毎月の予定についての連絡、システムについての連絡、ウイルス第三部から地研への 2006/07 シーズン HI 試験成績還元データアップロードの連絡、FluNet 更新のお知らせなどウイルス担当者や細菌検査担当者への情報提供を行った。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真理子、野地元子、加藤信子]

5. インフルエンザ流行レベルマップの作成

感染症発生動向調査により得られた全国のインフルエンザ患者発生動向を、過去の患者発生状況をもとに設けられた基準値に基づいて解析し、保健所ごとに警報レベル、注意レベルを超えたことを情報還元するための「インフルエンザ流行レベルマップ」を作成し、毎週火曜日に感染症情報センターのホームページ上にアップデートした。コメント欄には、最新の患者発生状況と病原体情報から得られたインフルエンザウイルス分離結果を合わせて掲載している。2006 年度は 2005/2006 年シーズンに含まれる 2006 年第 14 週~第 30 週、2006/2007 年シーズン中の 2006 年第 45 週~2007 年第 13 週までのインフルエンザ流行レベルマップ作成を行った。

[安井良則、柴田博子、木村幹男、谷口清州]

・感染症発生動向調査のシステムの改善

1. 感染症発生動向調査新システムの開発支援と稼働後

の改良

「感染症の患者の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく、感染症発生動向調査は、1999年4月の法制定以降、厚生労働行政総合情報システム（WISH）上に構築され運用されていたが、システム稼働後の法改正に未対応の部分がある等の課題があったことから、再構築することとされた。新システムの方向性・概要については、検討するため立ち上げられた「発生動向調査システム開発事業評価委員会（委員長：谷口清州）」により示された。新システムは、一部システムを除き、2006年4月に稼働開始された。新システムでは、中央データサーバーに、感染症発生動向調査（患者情報及び病原体検出情報）にとどまらず、疑い症例支援、症候群サーベイランス、感染症流行予測調査、インフルエンザ関連死亡、インフルエンザ施設別発生状況、さらに結核登録者情報に関する複数のシステムが統合され、一元的に管理されている。

2005年度にはこの新システムの開発に当たり、具体的な技術的支援を行ったが、2006年度にはシステム稼働後の改良について引き続き検討した。

(1) 感染症発生動向調査（患者情報）システム

患者情報では、特に迅速な判断・早期対応を可能とするため、従来どおりの週1回の定時集計以外での情報把握が可能な仕組みとし、セントラルデータベースでのデータ一元管理により、保健所、地方感染症情報センター、中央感染症情報センター等の関係機関の間で情報共有が可能となった。しかし稼働開始後、通信速度が遅い、全国集計に時間を要する、保健所の登録・修正を地方感染症情報センターが迅速に把握する機能がない、届出様式に応じた入力作業ができないものがある、取得データの内容が不十分など改善を要する数々の問題点が浮かび上がってきた。これらの問題点のいくつかは運用方法による解決策、人的・時間的作業により補ってきているが、システムのより一層の改善の必要性を含め、その解決方法を検討する必要がある。今後もさらなる改良すべき点、その解決方法を検討していく。

[多田有希、安井良則、木村幹男、加藤信子、松岡静香、中里篤、大竹由里子、谷口清州、神谷信行（東京都健康安全センター）、灘岡陽子（東京都健康安全センター）、池田一夫（東京都健康安全センター）]

(2) 病原体検出情報システム

2006年4月3日から運用開始した感染症発生動向調査等システムの中で、病原体検出情報サブシステムについ

てはプログラム開発が遅れて、2006年5月8日から段階的に運用を開始し、5月26日に全機能をリリースした。そのため、前年後に引き続きユーザー試験を行ない、プログラムの検証を行なった。運用開始後も引き続き、不具合に対するプログラム修正の検証を行なっている。システム運用開始後に正式版のマニュアルとコード表を完成させ、病原体検出情報システム利用機関に公開した。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、野地元子]

(3) 感染症流行予測調査システム

感染症流行予測調査システム開発の一部（データ移行）が平成18年7月稼働となり、その検証および確認を行った。また、本稼働以降の当該システム障害の原因調査、対応策の検討、および修正を行った。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子]

・感染症発生動向調査事業に関する業務

1. 各種疾患別情報および新着情報などのインターネットホームページへの掲載、更新、維持

感染症発生動向調査の各種集計および解析結果、時系列グラフ、地図グラフをホームページ上に掲載し、定期的に更新、維持管理を行った。各種疾患別情報および新着情報、およびインフルエンザ様疾患発生報告のページについても内容を検討し、HTMLファイル等の作成、維持管理を行った。

[大竹由里子、松岡静香、安井良則、重松美加、森兼啓太、田中政宏、多田有希、木村幹男、加藤信子]

2. 海外感染症情報の収集と評価

WER (WHO)、MMWR (米国 CDC)、Eurosurveillance Weekly (EU)、CDR Weekly (英国)、SCIEH Weekly Report (スコットランド)、CDI(豪州)、Lancet、N. Engl. J. Med.、J. Infect. Dis.、Clin. Infect. Dis.、J. Travel Med.などや、電子メールでのProMED、Outbreak Verification List (WHO、参加機関のみ) やTravelMed (国際旅行医学会、会員のみ)、あるいは、その他種々のウェブページ上での感染症情報を収集・評価し、必要な情報を関係機関に提供した。

[岡部信彦、木村幹男、多田有希、安井良則、FETP 研修生7期&8期、菅原民枝、浜本いつき、森兼啓太、大山卓昭、中島一敏、松井一乃、上野久美、大日康史、谷口清州、多屋馨子、田中政宏、重松美加]

3. 感染症流行時の情報発信

感染症情報センターのホームページ上にはフォーカスのコーナーがあり、話題となる感染症や大きく流行して

国民に大きな影響を及ぼす可能性のある感染症についての情報提供を行っている。2006年度にはノロウイルスの大規模な流行がみられたことから、流行期間中にフォーカスのコーナーに新たにノロウイルスのコーナーを立ち上げ、ノロウイルスへの対応・予防、感染経路に関する文書を作成して掲載すると共に、期間中に毎週感染症週報に掲載されていた注目すべき感染症「感染性胃腸炎」や病原微生物情報誌のノロウイルス感染に関する速報やウイルス検出状況等の情報を適宜更新しつつ掲載し、広くノロウイルスに関する最新情報の提供を行った。

[安井良則、森兼啓太、多田有希、山下和予、松岡静香、大竹由里子、木村幹男、岡部信彦]

・感染症流行予測調査事業に関する業務

1. 感染症流行予測調査報告書の作成

厚生労働省健康局結核感染症課及び感染研関係各部と共同で、平成17年度(2005年度)報告書を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、上野久美、北本理恵、谷口無我、牧下大和、荒木和子、浜本いつき、岡部信彦]

2. 感染症流行予測調査結果速報の発信

平成18年度感染症流行予測調査のうち、A)インフルエンザHI抗体保有状況を2006年11月30日から2007年2月13日まで計4回、B)プタの日本脳炎HI抗体保有状況を2006年6月19日から11月25日まで計18回速報としてホームページ上に公開した。C)麻疹、風疹、MMRワクチンの年齢別接種率をホームページ上に公開した。

[佐藤弘、多屋馨子、北本理恵、上野久美、荒木和子、岡部信彦]

3. 感染症流行予測調査実施要領の作成

厚生労働省健康局結核感染症課と共同で、平成18年度版を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、谷口無我、牧下大和、上野久美、北本理恵、荒木和子、岡部信彦]

4. 感染症流行予測調査システムの運用

平成18年4月稼働した感染症流行予測調査システムの各自治体におけるデータ入力サポート、およびトラブルに対する調査、対応をおこなった。

また、集計を迅速におこない、一部をホームページに公開した。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦]

5. 事務局業務

厚生労働省健康局結核感染症課、都道府県、都道府県衛生研究所、感染研関係各部との密接かつ円滑な連携を保つための業務を行った。

[多屋馨子、佐藤弘、上野久美、北本理恵、荒木和子、岡部信彦]

・サーベイランス事業の支援

1. 院内感染対策サーベイランス事業の支援

厚生労働省事業として行われている「院内感染対策サーベイランス」を支援する、厚生労働科学研究費補助金「薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究(主任研究者:細菌第2部・荒川宜親部長)の分担研究班:「院内感染サーベイランスにおける解析結果の還元・提供に関する研究」および同分担研究班:「手術部位感染症における効果的な感染症発生動向の把握と感染症リスク因子解析に関する研究」に対して横断的に担当し、解析結果のフィードバックに関するアンケート調査や、入力支援・データ提出・解析・フィードバックの流れを一元的に管理できるソフトウェアの開発に参画した。

[森兼啓太、谷口清州、岡部信彦、荒川宜親(細菌第2部)、小西敏郎・針原康(NTT東日本関東病院)、徳本史郎(クレヴァシステムズフィンガリング株式会社)、片岡穰・溝口達也(厚生労働省医政局指導課)]

2. 国内院内感染症集団発生事例に対する調査支援

急性C型肝炎集団発生事例(北海道札幌市)

[森兼啓太、安井良則、FETP、谷口清州、岡部信彦]

3. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

中国CDCが主催する北京オリンピックにおける症候群サーベイランスの実施に関する国際会議に参加した。

[岡部信彦、大日康史]

・感染症情報の収集、評価及び予防対策の策定

1. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

世界保健機関により行われている国際保健規則(IHR)の改正に関連して、その条文を技術的に検討し、また作業部会においてIHR2005におけるcore capacity requirementについての議論を行った。またバイオテロ対策やパンデミック対策において、G7+メキシコのGHSAGの会議に参加し、技術的な支援を行った。また政府間調整会議で議論を行った。ASEAN+3における新興感染症プロジェクト、あるいはGHSAGのリスクコミュニケーション会議に参加し、国際的な対応計画の策定に協力し

た。

[中島一敏、大日康史、田中政宏、安井良則、谷口清州]

2. スリランカ感染症対策プロジェクト

スリランカにおける効果的な感染症対策に関わるプロジェクトに協力し、現地調査を行った。

[谷口清州、玉城英彦 (北海道大学)]

3. 生物学的製剤に起因する感染症に関する安全性関連情報収集業務

移植片、輸血、タンパク製剤など生物由来の医療関連材料によると考えられる感染症を、早期に把握し、情報提供することにより、健康被害の拡大を防ぐことを目的とした情報収集と、そのためのシステム構築し、実施に向けた最終調整を行った。昨年度に引き続き、2000年以降の海外の文献情報を遡り検索し、関連情報をデータベース化した。2005年9月以降は、報道機関ニュースと、各国および国際的機関の公式情報を毎日、国内外の文献情報を定期的に収集し、生物学的製剤に関連を検討評価し、データベースに蓄積した上で、事務局として、生物学的製剤由来感染症評価検討委員会へ提出し、その調査、対応の緊急性を評価し、感染症研究所として科学的見知からコメントし、関係諸機関へ報告した。また、情報検索および蓄積・検索データベースのシステム開発に関与し、試験稼働を開始するとともに、よりよい検出アルゴリズム開発のための検討を行った。

[谷口清州、重松美加、多屋馨子、佐藤弘、柴田博子、岡部信彦]

4. 動物園・水族館の感染症ハンドブック作成

動物園水族館協会と共に動物由来感染症対策の一環として感染症ハンドブックを作成し、ホームページでの公開を行った(http://jdbv3.jazga.or.jp/siryokansen_p.pdf)。

[新井 智、福本幸夫(広島市安佐動物公園)、香山薫(伊豆三津シーパラダイス)、坂東元(旭川市旭山動物園)、高橋雅之(大阪市天王寺動植物公園事務所)、中村彰(名古屋市東山動物園)、高田真理子(海の中道海浜公園動物の森)、大阪豊(横浜市立野毛山動物園)、寺沢文男(新江ノ島水族館)、長谷川一宏(鳥羽水族館)、成島悦雄(多摩動物公園)]

5. 鳥インフルエンザの世界的流行汎アジア的発生に対する情報収集とヒト流行への予防的対策

2003年末からアジアで発生している鳥インフルエンザ(H5N1)の、ヒト感染が確認されたベトナムにおける疫学情報や実験室診断に関する情報収集を行い、現地担

当者と情報交換を実施し、感染拡大防止の対策などの情報提供、技術支援を行った。WHO、OIE(国際獣疫事務局)や各国衛生主管部局より発信された情報を整理し、随時日本語に翻訳(約150文書)して情報センターのホームページに迅速に掲出し、国民の情報ニーズに対応するとともに、定期的なメディア・ブリーフィングの実施など、リスクコミュニケーションの向上を図った。並行して、日本で鳥インフルエンザからのヒトでのパンデミック発生に備えた対応計画の策定のための情報収集と、既存の各国の計画の評価を行った。

[森兼啓太、田中政宏、大日康史、重松美加、砂川富正、中島一敏、大山卓昭、FETP7期&8期、松岡静香、大竹由里子、谷口清州、岡部信彦]

6. インフルエンザ流行期におけるインフルエンザ総合対策(強化サーベイランス、電話、メール問い合わせおよびウェブ情報の提供)

インフルエンザのQ&Aを更新し、医療従事者以外の要望の強い情報も提供した。インフルエンザホットライン業務を12月から3月までの平日日中時間帯に実施した。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、重松美加、森兼啓太、田中政宏、大日康史、松岡静香、木村幹男、多田有希、安井良則、大山卓昭、中島一敏、柴田博子、FETP研修生7期&8期]

国際協力関係業務

・国際的調査協力及び支援

1. カンボジアにおけるワクチン由来ポリオ症例発生に対する Supplementary Immunization Activity への参加
2006. 5. 18. -25.

[上野久美]

2. Botulism antitoxin supply to Korea from Japan 2006. 9. 21. - 23.

[上野久美]

・国際研修

海外からの来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国立国際医療センター海外研修生、JICA 留学生、各国保健医療および政府関係者などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、予防接種、SARSを含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての研修、病原体情報の説明、情報提供、広報業務をおこなっ

た。

[岡部信彦、谷口清州、大日康史、重松美加、森兼啓太、田中政宏、大山卓昭、中島一敏、木村幹男、山下和予、多田有希、多屋馨子]

研修業務

・感染症危機管理およびそれに関わる人材養成（実地疫学専門家養成プログラム）に関する業務

1. 全般実施状況

FETP の実施は 8 年目となり、平成 18 年 4 月、8 期生 3 名（五十嵐正巳、高橋亮太、徳田浩一）を迎えた。平成 19 年 3 月には 7 期生 3 名（阿保満、鈴木智之、鷲見宏）が研修終了した。また平成 13 年度から継続して Dr. John Kobayashi（Washington University, 米国）に長期コンサルタントを継続依頼し、感染症疫学研究、地方自治体との積極的疫学調査などが充実した。

2. 感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力

平成 18 年度において、実地疫学専門家養成プログラム（FETP）は、以下の感染症集団発生事例に対して、地方自治体からの要請を受けて、調査協力を行った。

- 施設内麻疹集団発生事例（茨城県取手市）
- 施設内 MDRP 集団発生事例（埼玉県入間郡）
- 施設内麻疹集団発生事例（東京都西東京市）
- 施設内 VRE 集団発生事例（埼玉県入間郡）

3. 研修活動

FETP のトレーニングの一環として、初期導入研修前期（John Kobayashi；4 月）、初期導入研修後期（John Kobayashi, Wanna Hanshaoworakul；7-8 月）とともに、性感染症予防対策（Kathleen Irwin；9-10 月）、感染症対策の国際的なネットワーク（Arnabd Bejtullahu；10 月）、インフルエンザ・パンデミック対策（Tim Uyeki；2 月）、院内感染の理論と実際（Mike Bell；3 月）に関するセミナーを開催した。

4. 教育研修経験

教育経験のための研修として、全国感染症危機管理研修会での講義、地方自治体の感染症危機管理研修会（秋田県、茨城県、埼玉県、東京都、愛知県豊田市、熊本県）での講義・討論をおこなった。

5. 感染症疫学研究

平成 18 年度に研修終了した 7 期生が以下の長期プロジェクト研究発表をおこなった。

同時に論文作成し、国立保健医療科学院健康危機管理分野特別論文として提出して、公衆衛生学修士（MPH）を取得した。

「東京都『症候群別サーベイランスシステム』の初期評価」阿保満

「バンコマイシン耐性腸球菌感染症の集団発生時におけるスクリーニング検査の実施モデル」鈴木智之

「麻しんサーベイランスの届出方式・届出基準の検討—集団発生事例調査のデータに基づいて—」鷲見宏

6. 感染症サーベイランス活動

毎週ごとに収集されるサーベイランス報告対象疾患の情報を監視・解析し、必要に応じて地方自治体とともに公衆衛生的介入を実施した。

腸管出血性大腸菌感染症サーベイランスに対する情報交換・還元

レジオネラ症の発生動向

HIV/AIDS 発生動向に基づいた提言

ウイルス性肝炎（特に A 型および E 型）の集積についての注意喚起と提言

麻疹症例増加に対する予防接種推奨、等

7. 感染症情報の還元

感染症サーベイランス、感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力などで得られた情報を病原体検出情報（月報）感染症週報などを通じて一般住民、公衆衛生従事者などに還元した。また、インフルエンザ流行時期（10 月～3 月）には、一般住民からのインフルエンザに関する問い合わせ、公衆衛生・医療関係者からの予防接種対象疾患（麻疹など）、鳥インフルエンザ等に関する問い合わせに対応した。

[岡部信彦、FETP7 期&8 期、感染症情報センター一同]

・感染症危機管理研修会

感染症情報センターが事務局を務め、平成 9 年度より定期的実施している感染症危機管理研修会を 9 月 28 日、29 日に開催した。2006 年度の事務局は、多屋馨子、佐藤弘、上野久美、山野井茂利が担当した。研修内容として、「国の健康危機管理体制について」「感染症法・予防接種法改正について」「地域保健対策について」「国際保健規則（IHR）改正について」「茨城県竜ヶ崎市保健所管内における麻しん流行への対応」「沖縄県麻疹発生全数把握事業について - 沖縄県及び保健所の取り組み -」「疑似症例調査支援システム・症候群サーベイランス」「知的障害者福祉施設における腸管出血性大腸菌 O157 感染症

集団発生事例対応」 「埼玉県のO157等感染症に係る疫学的原因究明事業とその実績」 「感染症法における動物由来感染症」 「新型インフルエンザの世界的動向」 「インフルエンザ(H5N1)・医療機関の対応」 「インフルエンザ(H5N1)積極的疫学調査ガイドラインについて」、感染症集団発生時の疫学調査に関するケーススタディ演習等を行った。全国の感染症担当部局、保健所、衛生研究所から百数十名の受講者があった。

[感染症情報センター一同]

・国立保健医療科学院による研修

1. 新興再興感染症技術研修

国立保健医療科学院による特定課程新興再興感染症技術研修を、平成18年11月6日から11月28日まで感染症研究所村山庁舎で行った。地方衛生研究所あるいは保健所において細菌検査業務に従事する中級者を対象として、細菌学の体系的な理解と新しい知識及び技術の習得を目的としている。保健所3名・地方衛生研究所13名・食肉検査所2名の合計18名であった。本研修は感染症情報センターを初めとして、感染研関連各部室、名古屋検疫所、東京都安全健康研究センター、神奈川県衛生研究所、海事検定協会の協力を得て遂行された。

[伊藤健一郎、木村博一、飯田真里子]

2. 特別課程ウイルスコース

本研修は、平成18年9月5日から10月6日まで、国立保健医療科学院及び感染症研究所村山庁舎・戸山庁舎で行った。本研修は、保健所あるいは地方衛生研究所においてウイルス検査業務を担当する職員を対象としている。本研修の主な目的は、ウイルス学の体系的な理解と現状に対応した新しい知識及び技術の習得である。今年度は地方衛生研究所の専門職員23名が受講した。本研修は、感染症情報センターをはじめ、感染研各専門部・室、各地方衛生研究所の支援・協力を得て行われた。

[木村博一、伊藤健一郎、飯田真里子、秋山美穂]

3. 健康危機管理保健所長等研修会

第2回および第4回健康危機管理保健所長等研修会において、SARS、鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱および脳炎など、新興・再興感染症の動向を中心とした感染症の現状と対策、対応について講義を行った。

[重松美加]

・その他の研修の実施

1. 希少感染症診断技術向上事業に関する業務

平成18年度は対象疾患として、チクングニヤ、E型肝炎、日本紅斑熱、多剤耐性緑膿菌、ジフテリア、マラリア、結核、インフルエンザ、狂犬病の検査法・ワクチン、感染症法改正後の病原体管理が取り上げられた。研修会は平成19年2月、当感染研で2日間開催され、76地研、約105名が参加した。それぞれの疾患は獣医科学部、ウイルス第一部、ウイルス第二部、細菌第二部、ウイルス第三部、寄生動物部、感染症情報センター、ハンセン病センター等の協力により行われた。

[上野久美、多屋馨子、岡部信彦、倉根一郎(ウイルス第一部)]

2. インフルエンザ研修

厚生労働省血液対策課主催都道府県インフルエンザワクチン担当者会議において、インフルエンザの疫学的動向について、研修を実施した。

[多屋馨子]

3. NBC災害・テロ対策研修

厚生労働科研「テロに対する医療体制の充実および評価に関する研究(分担研究者 岡部信彦)により、DMAT研修を終了した医療機関職員に対するバイオテロ対策の研修マテリアルを作成し、研修会の講師をつとめた。

「松井珠乃、中島一敏、岡部信彦」

その他

・情報提供及び広報活動

1. 電話、メールによる問い合わせ業務

予防接種、人獣共通感染症、SARS、インフルエンザ、鳥インフルエンザ、風疹、麻疹、ポリオ、下痢症ウイルス等、その他感染症に関する電話、メールによる問い合わせに対応した。一般からの電話相談が最も多く、特に、メディアで報道された場合、電話問い合わせが殺到した。医療従事者、自治体、保健所、メディア等を含めて、年間の問い合わせ件数は、研究者1人あたり、電話約500-1000件、メール約50-100件である。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、田中政宏、木村幹男、多田有希、安井良則、多屋馨子、佐藤 弘、上野久美、稲田敏樹、伊藤健一郎、木村博一]

2. 来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国内生徒、学生の修学旅行や社会見学、などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、SARSを

含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、田中政宏、砂川富正、中島一敏、木村幹男、多田有希、多屋馨子]

3. メディアへの対応

メディアからの問い合わせに対しては、通常は情報センター内に於いて問い合わせ内容別に担当者を決め、取材等に依頼に応じている。

平成 15 年 SARS 対応時には、メディアからの取材依頼殺到に応じるため、1 週間に 1 回定例として SARS に関し、行政発表とは異なった科学的視点からの解説、状況説明を行った。これをきっかけにメディア希望者に対して毎月 1 回、情報センター・メディア感染症情報交換会として、感染症情報の提供、解説、意見交換を行っている。話題として、病原体検出情報(IASR)の特集を取り上げるほか、その都度のトピックスを取り上げている。また緊急的に伝え他の方がよいと考えられた時(例:ウエストナイル熱本邦初発症例)には、臨時に開催し、コメントを出すようにしている。感染研としての公式発表ということではなく、あくまで情報センターからの科学的情報提供、としている。情報提供は主に感染症情報センター長および適時情報センタースタッフとしているが、IASR 特集のように感染研内部の担当専門者に依頼することもある。本会の登録者は 100 人程度となっており、Risk communication の一手段として、メディア側の協力も得て継続、実施している。

[岡部信彦、感染症情報センター一同]

・血清銀行に関する業務

1. 血清の保管

感染症流行予測調査事業のため各都道府県において収集し用いた後の余剰血清のうち、国内血清銀行での保管の承諾が得られた血清を受け入れ、保管した。平成 18 年度に受け入れた血清は、計 3,952 本であった。

[荒木和子、佐藤 弘、谷口無我、上野久美、多屋馨子、岡部信彦]

2. 研究目的での血清の払い出し

使用申請があった 2 研究に対して計 1,060 本の分与を行った。

[荒木和子、谷口無我、浜本いつき、佐藤 弘、上野久美、多屋馨子、岡部信彦]

3. その他

職員血清の保管

平成 18 年職員血清、計 481 本を受け入れ保管した。

[佐藤 弘、谷口無我、荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

4. 保管血清の管理

[荒木和子、佐藤 弘、谷口無我、上野久美、浜本いつき、多屋馨子、岡部信彦]

・予防接種に関する業務

1. 予防接種情報公開に関する業務

(1) 感染症情報センターHP 内に日本の予防接種スケジュール 2006 を公開した。

(2) 感染症情報センターHP 予防接種のページを更新した。
[多屋馨子、松岡静香、佐藤 弘、上野久美、岡部信彦]

2. 日本ワクチン学会に関する業務

ニューズレター事務局業務を行った。著者への連絡、原稿収集、ワクチン関連トピックスを担当し、その原稿を作成した。

[岡部信彦、多屋馨子]

・レファレンス業務

アデノウイルスレファレンスセンターとして全国の衛生研究所にたいして、アデノウイルスの分離状況や分離に使用した細胞などのアンケート調査を実施し 52 の衛生研究所から回答を得た。その集計を回答していただいた衛生研究所にメールで報告した。

今年度から発足したノロウイルスレファレンスセンターでは 2006~2007 年の冬季に大流行したノロウイルスの遺伝子型の調査のため、全国の衛生研究所から PCR 産物の提供を得て民間の会社に遺伝子解析を依頼して調査を実施した。全国 64 衛生研究所の協力を得て約 850 検体の解析を行った。

[岡部信彦、松野重夫、荒木和子、渡辺裕子]

・公的機関の委員

新型インフルエンザ専門家会議委員

[岡部信彦、森兼啓太、谷口清州、田中政宏、多屋馨子、安井良則、中島一敏、大日康史、上野久美]

ワクチンビジョン委員会

[岡部信彦、大日康史]

厚生労働省 予防接種健康被害認定部会/分科会

[岡部信彦(委員長)、多屋馨子(委員)]

厚生労働省 予防接種後副反応・健康状況調査検討会委員

[岡部信彦、多屋馨子]

厚生労働省 薬事・食品衛生審議会

感染症情報センター

[多屋馨子 (専門委員)]

独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

[多屋馨子]

・学校 (大学、大学院等) における教育への参加

以下の教育機関より、非常勤講師、客員教授などの委嘱 (併任、兼任) を受け、医学教育等への参加を積極的に行っている。

岡部信彦

- 東京慈恵会医科大学客員教授 (小児科講座)
- 首都大学東京客員教授 (大学院・国際保健学)
- 東京大学非常勤講師 (大学院医学系研究科・国際保健学)
- 名古屋大学非常勤講師 (医学部感染症科)
- 国立看護大学非常勤講師 (感染症学)
- 大阪市立大学非常勤講師 (大学院医学研究科・医学部、公衆衛生学)
- 共立薬科大学大学院非常勤講師 (感染症学)
- 京都大学医学部非常勤講師 (感染病学)
- 京都大学大学院医学研究科非常勤講師 (国際保健学)
- 東北大学医学部非常勤講師 (感染症制御学)
- お茶の水女子大非常勤講師 (化学・生物総合管理の再教育講座)

谷口清州

- 北海道大学大学院医学研究科非常勤講師 (感染症学)

木村幹男

- 岡山大学大学院 (薬学系) (日本における感染症サ
ーベイランス)

多屋馨子

- 東京慈恵会医科大学医学部非常勤講師 (微生物学講座第一 (臨床基礎医学ウイルスと感染 (ワクチンの基礎と応用))
- お茶の水女子大非常勤講師 (化学・生物総合管理の再教育講座)

木村博一

- 群馬大学医学部講師 (感染症学・ウイルス学)

安井良則

- 大阪市立大学医学部非常勤講師 (臨床検査医学 (院

内感染))

大山卓昭

- 京都大学大学院社会医学系非常勤講師 (環境科学『フィールド・エビデミオロジー』)
- お茶の水女子大非常勤講師 (化学・生物総合管理の再教育講座)

中島一敏

- 大分大学医学部非常勤講師 (微生物学講義)

大日康史

- 大阪大学医学部非常勤講師 (医療経済学)
- 呉大学看護学部非常勤講師 (医療経済学)
- 大阪市立大学大学院医科学研究科非常勤講師 (医療経済学)
- 岐阜大学大学院医学研究科非常勤講師 (医療経済学)

森兼啓太

- 国立看護大学校非常勤講師 (感染管理学)
- 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師 (感染管理学)
- 日本赤十字看護大学非常勤講師 (感染管理学)
- 北海道医療大学非常勤講師 (感染管理学)
- 滋賀県立大学非常勤講師 (感染管理学)

松井珠乃

- 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師 (公衆衛生学)

東京慈恵会医科大学医学部 4 年生、6 年生の学外実習機関として学生教育実施

その他、医学部およびその他の医育機関の学生より見学研修の依頼を受け、実施している

・検査実施状況

| | 行政 | 研究 | 合計 |
|----------|----|----|----|
| ウイルス分離同定 | 0 | 4 | 4 |
| 核酸・抗原検出 | 0 | 37 | 37 |
| 血清反応 | 5 | 0 | 5 |
| 合計 | 5 | 41 | 46 |

感染症情報センター

・ 研究員 ・ 研究生

| 氏 名 | 身 分 | 期 間 | 出 身 |
|-------------------|-------|----------------------|--------------------|
| 中村明子 | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京大学 |
| 金沢 保 | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 産業医科大学 |
| 加藤 茂孝 | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 米国疾病対策予防センター |
| 押谷 仁 | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東北大学大学院 |
| 西尾 治 | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 元職員 |
| John M. kobayashi | 客員研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | ワシントン保健局 |
| 菅原民枝 | 流動研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | ヒューマンサイエンス新興財団 |
| 浜本いつき | 協力研究員 | H18. 4. 1- H18. 9.30 | 大阪大学微生物病研究所 |
| ” | 流動研究員 | H18.10. 1- H19. 3.31 | ヒューマンサイエンス新興財団 |
| 阿保 満 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京都福祉保健局 |
| 鷺見 宏 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 兵庫県西播磨県民局山崎健康福祉事務所 |
| 鈴木智之 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 産業医科大学 |
| 五十嵐正巳 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 自衛隊舞鶴病院 |
| 高橋亮太 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 陸上自衛隊 |
| 徳田浩一 (FETP) | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 鹿児島県立薩南病院 |
| 中瀬克巳 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 岡山市保健所 |
| 加來浩器 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東北大学大学院 |
| 田中 毅 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 福岡検疫所 |
| 浦島充佳 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京慈恵会医科大学 |
| 松永泰子 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 元職員 |
| 藤井達也 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 三宿病院・自衛隊中央病院 |
| 逸見佳美 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 自衛隊中央病院 |
| 島田 靖 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 日本医科大学 |
| 吉田英樹 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 大阪市保健所 |
| 森 伸生 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 関西医科大学 |
| 齋藤章暢 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 埼玉県衛生研究所 |
| 上野正浩 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 慈恵医科大学大学院 |
| 増田和貴 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京都健康局 |
| 三村敬司 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 陸上自衛隊衛生学校 |
| 山口 亮 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 北海道庁石狩保健福祉事務所 |
| 森山和郎 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 大阪府健康づくり感染症課 |
| 鈴木葉子 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京女子医科大学東医療センター |
| 松館宏樹 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 岩手県環境保健研究センター |
| 森下高行 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 愛知県食品衛生検査所 |
| 松崎充宏 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | (社)日本海事検定協会 |
| 宗村徹也 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 横浜市食肉衛生検査所 |
| 飯田真里子 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京医科歯科大学大学院 |
| 太田正樹 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 結核研究所 |
| 神垣太郎 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東北大学大学院 |

感染症情報センター

| | | | |
|-------------|-------|----------------------|---------------|
| 小林幹子 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東北大学大学院 |
| 登坂直規 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 東京医科歯科大学 |
| 田中幸江 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | 元職員 |
| 愛木智香子 | 協力研究員 | H18. 4. 1- H19. 3.31 | (財)日本冷凍食品検査協会 |
| 小林康人 | 協力研究員 | H18. 7. 1- H19. 3.31 | 東京サラヤ(株) |
| 加藤由実 | 協力研究員 | H18. 7. 1- H19. 3.31 | 東京サラヤ(株) |
| Yafen Cheng | 協力研究員 | H18. 8. 1- H18. 8.21 | 台湾 CDC |
| 宮城裕人 | 協力研究員 | H18. 9. 1- H19. 3.31 | 聖マリア病院 |
| 隈下祐一 | 協力研究員 | H18. 9. 1- H19. 3.31 | サラヤ(株) |
| 野澤康平 | 協力研究員 | H18.10. 1- H19. 3.31 | 三洋電機(株) |
| 鈴木大輔 | 協力研究員 | H18.10. 1- H19. 3.31 | 三洋電機(株) |
| 別所健太郎 | 協力研究員 | H18.11.20-H19. 3.31 | (財)日本冷凍食品検査協会 |
| 井内田科子 | 協力研究員 | H18.12. 1- H19. 3.31 | 内閣府大臣官房国際課 |
| 渡辺裕子 | 協力研究員 | H18.12. 1- H19. 3.31 | |
| 岡崎 薫 | 協力研究員 | H18.12. 1- H19. 3.31 | 東京都立八王子小児病院 |
| 神谷 元 | 協力研究員 | H19. 3. 1- H19. 3.31 | |

発表業績一覧

・誌上発表

1. 欧文発表

- 1) Ohkusa Y, Sugawara T: Cost-effectiveness analysis and its application for policy evaluation for medicine or public health. *Public Policy Review*, 2(1): 45-75, 2006.
- 2) Kawazoe A, Kin L, Shigematsu M, Barrer R, Taniguchi K, Collier N: The development of a schema for the annotation of terms in the BioCaster disease detecting/tracking system. *Proceedings of the International Workshop on Biomedical Ontology in Action*, 222:77-85, 2006.
- 3) Hitani A, Nakamura T, Ohtomo H, Nawa Y, Kimura M: Efficacy and safety of atovaquone-proguanil compared with mefloquine in the treatment of nonimmune patients with uncomplicated *P. falciparum* malaria in Japan. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 12:277-282, 2006.
- 4) Editorial Committee of Findings of Infectious Agents in Japan: Annual Report on Findings of Infectious Agents in Japan, 2002. *Japanese Journal of Infectious Diseases*, 56(Suppl), 2003.
- 5) Lu Y, Iyoda S, Satou H, Satou H, Itoh K, Saitoh T, Watanabe H: A new immunoglobulin-binding protein, EibG, is responsible for the chain-like adhesion phenotype of locus of enterocyte effacement-negative, shiga toxin-producing *Escherichia coli*. *Infection and Immunity*, 74(10):5747-5755, 2006.
- 6) Iyoda S, Koizumi N, Satou H, Lu Y, Saitoh T, Ohnishi M, Watanabe H: The GrlR-GrlA regulatory system coordinately controls the expression of flagellar and LEE-encoded type III protein secretion systems in enterohemorrhagic *Escherichia coli*. *Journal of Bacteriology*, 188(16): 5682-5692, 2006.
- 7) Ungchusak K, Chunsuttiwat S, Breden C, Aldis W, Ueno K, Wiboolpolprasert S: International rapid mobilization of essential medicine in case of public health emergency: Lessons learned from the Botulism outbreak, 2006, in Thailand. *WHO Bulletin*, 85(3):238-240, 2007.
- 8) Konishi E, Shoda M, Yamamoto S, Arai S, Tanaka-Taya K, Okabe N: Natural infection with Japanese encephalitis virus among inhabitants of Japan: a nationwide survey of antibodies against nonstructural 1 protein. *Vaccine*, 24:3054-3056, 2006.
- 9) Takeuchi K, Tanaka-Taya K, Kazuyama Y, Ito YM, Hashimoto S, Fukayama M, Mori S: Prevalence of Epstein-Barr virus in Japan: trends and future prediction. *Pathology International*, 56(3):2006.
- 10) Iida M, Yamazaki M, Yatsuyanagi J, Ratchtrachenchai OA, Subpasu S, Okamura N, Ito K: Typing of *bfpA* Genes of Enteropathogenic *Escherichia coli* Isolated in Thailand and Japan by Heteroduplex Mobility Assay. *Microbiology and Immunology*, 50(9):713-717, 2006.

- 11) Ito K, Iida M, Yamazaki M, Moriya K, Moroishi S, Yatsuyanagi J, Kurazono T, Hiruta N, Ratchtrachenchai OA: Intimin Types Determined by Heteroduplex Mobility Assay of Intimin Gene (*eae*)-Positive *Escherichia coli* Strains. *Journal of Clinical Microbiology*, 45(3):1038-1041, 2007.
 - 12) Okazaki K, Nishida A, Kato M, Kozawa K, Uga N, Kimura H: Elevation of cytokine concentrations in asphyxiated neonates. *Biology of the Neonate*, 89:183-189, 2006.
 - 13) Nishina A, Kimura H, Sekiguchi A, Fukumoto R, Nakajima S, Furukawa S: Lysophosphatidyl ethanolamine in *Grifola frondosa* as a neurotrophic activator via activation of MAP kinase. *Journal of Lipid Research*, 47:1434-1443, 2006.
 - 14) Sekiguchi A, Nishina A, Kimura H, Fukumoto R, Kogami M, Ishihar H, Koketsu M: Bis-(2-amino-5-selenazolyl) ketone as a Superoxide Anion-scavenger. *Biological Pharmaceutical Bulletin*, 29:1404-1407, 2006.
 - 15) Tago H, Mogi K, Kimura H, Kozawa K, Fujie K: Comparison of Fogwater Composition and Ozone Concentration Measured at Two Different Mountainous Sites by a Long-term Observation in Japan. *Water, Air and Soil Pollution*, 175:385-391, 2006.
 - 16) Kimura H, Yoshizumi M, Iijima M, Tsukagoshi T, Nishimura T, Kato M, Morita Y, Tanaka R, Kozawa K, Fujita M, Kojima M, Minakami H: Tuberculosis-like Peritonitis Due to an Atypical *Mycobacterium* Infection in a Japanese Woman. *Japan Journal of Infectious Diseases*, 59:189-191, 2006.
 - 17) Nakamura T, Kimura H, Kato M, Kurashige S, Wakamatsu K: A sensitive and reliable quantitation method for mouse interleukin-12 p70 based on fluorometric sandwich ELISA (FS-ELISA). *Cell Biology International*, 31:173-179, 2007.
 - 18) Nishida T, Nishio O, Kato M, Chuma T, Kato H, Iwata H, Kimura H: Genotyping and quantitation of noroviruses in oysters from two distinct sea areas in Japan. *Microbiology and Immunology*, 51:177-184, 2007.
 - 19) Arai H, Morita Y, Izumi S, Katagiri T, Kimura H: Molecular typing by PCR-RFLP and PFGE of *Flavobacterium psychrophilum* isolates derived from Japanese fishes. *Journal of Fish Diseases*, 30:345-355, 2007.
 - 20) Kobayashi T, Kimura H, Okada Y, Inoue Y, Shinohara M, Kobayashi T, Morikawa A: Increased CD11b expression on polymorphonuclear leukocytes and cytokine profiles in patients with Kawasaki disease. *Clinical Experimental Immunology*, 148: 112-118, 2007.
 - 21) Iijima A, Sato K, Yano K, Tago H, Kato M, Kimura H, Furuta N: Particle size and composition distribution analysis of automotive brake abrasion dusts for the evaluation of antimony sources of airborne particulate matter. *Atmospheric Environment*, 41:4908-4919, 2007.
 - 22) Hansman GS, Oka T, Okamoto R, Nishida T, Toda S, Noda M, Sano D, Ueki Y, Imai T, Omura T, Nishio O, Kimura H, Takeda N: Detection of human sapovirus in clams Japan. *Emerging Infectious Diseases*, 13:620-622, 2007.
 - 23) Boonmar S, Morita Y, Fujita M, Sangsuk L, Suthivarakom K, Padungtod P, Maruyama S, Kabeya H, Kato M, Kozawa K, Yamamoto S, Kimura H: Serotypes, antimicrobial susceptibility, and *gyr A* gene mutation of *Campylobacter jejuni* isolates from humans and chickens in Thailand. *Microbiology and Immunology*, 51:531-537, 2007.
2. 和文発表
- 1) 岡部信彦: 感染症法と感染症サーベイランス. 船田久(編). 感染症診療ガイドライン, 3-10, 永井書店, 2006.4.
 - 2) 岡部信彦: 新興感染症 (SARS、鳥インフルエンザなど). 大関武彦, 古川漸, 横田俊一郎(編). 小児の治療指針, 第14版, 263-264, 医学書院, 2006.5.
 - 3) 岡部信彦: 鳥のインフルエンザとヒトへの影響. *ファルマシア*, 42(6):577-582, 2006.
 - 4) 岡部信彦: 鳥のインフルエンザとヒトへの影響. *保育と保健*, 12(2):43-45, 2006.
 - 5) 岡部信彦, 橋戸円: サーベイランスから見た日本の性感染症. *小児科*, 47(9):1293-1300, 2006.
 - 6) 岡部信彦: 感染症と法律 (感染症法、予防接種法、結核予防法、食品衛生法). 河野茂, 平瀧洋一(編). *微生物検査ガイド*, 534-554, 文光堂, 2006.7.
 - 7) 岡部信彦: 生物兵器による感染症. 河野茂, 平瀧洋一(編). *微生物検査ガイド*, 556-564, 文光堂, 2006.7.
 - 8) 岡部信彦: 特殊な微生物検査の依頼先一覧. 河野茂, 平瀧洋一(編). *微生物検査ガイド*, 582-588, 文光堂, 2006.7.
 - 9) 岡部信彦: ジフテリア. 日本小児感染症学会(編).

- 小児感染症マニュアル, 31-35, 東京医学社, 2006.11.
- 10) 岡部信彦: 輸入(外来性)感染症. 日本小児感染症学会(編). 小児感染症マニュアル, 569-585, 東京医学社, 2006.11.
 - 11) 岡部信彦: 国家危機管理の観点から見た感染制御 - わが国における感染症危機管理の現状 -. 医学のあゆみ, 218(13):1058-1062, 2006.
 - 12) 岡部信彦: (医療機関)職員に接種するワクチンについて. 感染と消毒, 13(2):121-124, 2006.
 - 13) 岡部信彦: 麻疹・風疹(MR)混合ワクチン. 日本医師会雑誌, 135(10):2173-2177, 2006.
 - 14) 岡部信彦: 新型インフルエンザからどう守るのか - サーベイランス実施期間の立場から -. 医学のあゆみ, 219(10):771-775, 2006.
 - 15) 岡部信彦: 新型インフルエンザ流行に備える. 武田薬報, 447:25-30, 2006.
 - 16) 岡部信彦: ペスト. 山口徹, 北原光夫, 福井次夫(総編集). 今日の治療指針, 2007, 132-133, 医学書院, 2007.1.
 - 17) 横田俊平, 多屋馨子, 岡部信彦: ACIPについて - わが国の予防接種プラン策定に新しいシステムの導入を -. 日本小児科学会雑誌, 110(6):756-761, 2006.
 - 18) 柳川洋, 岡部信彦: スギヒラタケの関与が疑われている原因不明の脳症. 1. 本邦での患者発生. 日本内科学会雑誌, 95(7):1305-1309, 2006.
 - 19) 斉藤義弘, 岡部信彦: 呼吸器感染症をおこすウイルス感染症. 臨床と微生物, 33(増刊):595-602, 2006.
 - 20) 加来浩器, 岡部信彦: 国際的に重要なウイルス感染症. 臨床と微生物, 33(増刊):649-655, 2006.
 - 21) 田中政宏, 岡部信彦: 新型インフルエンザとその対策行動計画. 感染、炎症、免疫, 36(3):235-237, 2006.
 - 22) 世古留美, 川戸美由紀, 橋本修二, 加藤昌弘, 岡部信彦: 母親の予防接種に対する認識と接種状況. 公衆衛生学会雑誌, 53(12):884-888, 2006.
 - 23) 大日康史, 川口行彦, 谷口清州 他: 救急車搬送数による症候群サーベイランスのための基礎的研究. 日本救急医学会雑誌, 17(10): 712-720, 2006.
 - 24) 大日康史: 新型インフルエンザの広がり方: 数理モデルの応用. 臨床と研究, 83(12):16-20, 2006.
 - 25) 大日康史, 井上智: 我が国の飼育犬に狂犬病が侵入した場合の伝播と流行拡大の数理モデルによる解析. 家畜衛生学雑誌, 32:9-11, 2006.
 - 26) 大日康史: 医療経済学的観点からのインフルエンザの予防と治療. 公衆衛生, 70(10):772-774, 2006.
 - 27) 児玉和夫, 菅原民枝, 大日康史: 高齢者中心の診療所における外来受診時症候群サーベイランスの検討. 島根医学, 26(2):13-19, 2006.
 - 28) 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州 他: パンデミック時の抗ウイルス剤およびワクチンの使用優先順位に関する調査研究. 厚生指針, 53(8):17-24, 2006.
 - 29) 大日康史, 菅原民枝, 多屋馨子, 上野久美, 安井良則, 岡部信彦, 砂川富正, 西藤成雄: インターネットの利用で参加できる麻疹様疾患報告システムの構築 - 全数報告による麻疹把握のための一歩として -. 日本医事新報, No.4292:68-72, 2006.
 - 30) 大日康史, 杉浦弘明, 菅原民枝, 谷口清州, 岡部信彦: 症状における症候群サーベイランスのための基礎的研究. 感染症学雑誌, 80(4):366-376, 2006.
 - 31) 大日康史, 菅原民枝: 1 QALY 獲得に対する最大支払い意思額に関する研究. 医療と社会, 16(2):157-165, 2006.
 - 32) 菅原民枝, 大日康史 他: 水痘ワクチン定期接種化の費用対効果分析. 感染症学雑誌, 80(3):212-219, 2006.
 - 33) 高橋謙造, 菅原民枝, 大日康史: 麻疹における麻疹風疹混合ワクチン 2 回接種の医療経済学的評価. 病原微生物検出情報, 27(4):13-14, 2006.
 - 34) 大日康史, 岡部信彦, 多屋馨子: 麻疹・風疹ワクチンの 2 回接種導入に伴う単味ワクチンの需要に及ぼす影響. 病原微生物検出情報, 27(4):14-16, 2006.
 - 35) 田中政宏, 菅原民枝, 大日康史, 岡部信彦: 麻疹風疹の定期予防接種制度改正に伴う定期接種の実施に関する全国市町村および特別区への実施調査. 病原微生物検出情報, 27(4):17-18, 2006.
 - 36) 谷口清州: 鳥インフルエンザの世界的現状. 医学のあゆみ, 218(10):821-826, 2006.
 - 37) 谷口清州: 国際インフルエンザサーベイランス. 日本臨床, 64(10):1950-1953, 2006.
 - 38) 谷口清州: 夏の胃腸炎とその対策. 東京小児科医会報, 87:48-52, 2006.
 - 39) 谷口清州: 鳥インフルエンザ発生の現状と注意点. 成人病と生活習慣病, 36(8): 915-919, 2006.
 - 40) 谷口清州: 新型インフルエンザパンデミックへの対応. 日本胸部臨床, 65(10): 897-905, 2006.
 - 41) 森山和郎, 登坂直樹, 谷口清州 他: 山梨県 A 病院における VanB 型バンコマイシン耐性腸球菌集団分離事例. 環境感染, 21(3):168-174, 2006.
 - 42) 谷口清州: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザに対する対策. ICU と CCU, 30(9): 649-650, 2006.
 - 43) 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 多田有希, 重松美

- 加, 谷口清州, 泉田美知子, 永井正規: 感染症発生動向調査に基づく2002~2004年の罹患数推計. 日本公衆衛生誌, 53(10):794-799, 2006.
- 44) 谷口清州: 鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ. 内科, 98(5):773-778, 2006.
- 45) 村上義孝, 橋本修二, 川戸美由紀, 多田有希, 重松美加, 谷口清州, 泉田美知子, 永井正規: 感染症発生動向調査に基づいた警報・注意報発生法における基準値変更の影響. 日本公衛誌, 54(3):168-177, 2007.
- 46) 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 多田有希, 重松美加, 谷口清州, 泉田美知子, 永井正規: 感染症発生動向うに基づく流行情報把握. 藤田学園医学雑誌, 30(2):77-82, 2006.
- 47) 谷口清州: 鳥インフルエンザの現状と対策. 日病薬誌, 43(3):339-343, 2007.
- 48) 松井珠乃: FETPの活動と日常. 公衆衛生, 70:304-307, 2006.
- 49) 松井珠乃, 岡部信彦: 集団発生時の安全対策と危機管理. 臨床と微生物, 33: 223-227, 2006.
- 50) 松井珠乃: 市中におけるSalmonella Enteritidis感染症集団発生 長い潜伏期が問題となった事例. 公衆衛生, 70:621-624, 2006.
- 51) 森兼啓太: 欧米のガイドラインとその遵守. 日本外科学会雑誌, 107(5):207-210, 2006.
- 52) 森兼啓太: 手術部位感染. 感染制御, 2(2):150-154, 2006.
- 53) 森兼啓太: 手術部位感染の減少を目指して - 手術部スタッフの果たす役割 -. 手術医学, 27(2):110-113, 2006.
- 54) 森兼啓太: 血管内留置カテーテル由来血流感染の概要. INFECTION CONTROL, 15(7):668-672, 2006.
- 55) 森兼啓太: 隔離予防策ガイドラインの改訂. 感染制御, 2(3):253-256, 2006.
- 56) 森兼啓太: 日本における耐性菌の現状と基本的な予防策. 月間薬事, 48(10):1485-1488, 2006.
- 57) 森兼啓太: 欧米にみる感染制御の新しい流れ. 医学のあゆみ, 218(13):1067-1070, 2006.
- 58) 森兼啓太: 術直前から術後までの患者管理と諸問題. 感染対策 ICT ジャーナル, 1(1): 26-27, 2006.
- 59) 森兼啓太: MRSA 保菌・感染外科患者の周術期管理のポイント. 感染対策 ICT ジャーナル, 1(1):48-51, 2006.
- 60) 森兼啓太: 合併症からみた術前準備. レジデントノート, 8(9):1232-1236, 2006.
- 61) 森兼啓太: CDCによる医療関連感染アウトブレイクの調査. 感染制御, 2(4):352-356, 2006.
- 62) 森兼啓太: APIC:その設立から今後の展開まで. 感染制御, 2(4):301-304, 2006.
- 63) 森兼啓太: アジアにおける鳥インフルエンザ(A/H5N1)の状況. 病原微生物検出情報, 27(11):311-312, 2006.
- 64) 森兼啓太: 感染症動向 2006: 耐性菌. メディカル朝日, 36(1):42-43, 2007.
- 65) 森兼啓太: 全国サーベイランスにみるMDRP発生動向. 感染対策 ICT ジャーナル, 2(1):39-42, 2007.
- 66) 森兼啓太: SARSなどの1類感染症患者発生時の対応. 最新医学, 62(2):268-274, 2007.
- 67) 森兼啓太: 新型インフルエンザについて私たちが知っておきたいこと. INFECTION CONTROL, 16(3):66, 2007.
- 68) 森兼啓太: 医療施設における多剤耐性菌の管理に関するCDCのガイドライン. 感染制御, 3(1):3-7, 2007.
- 69) 森兼啓太: 第2章-9 外科感染症-治療. 渡辺彰(編集). 抗菌薬臨床ハンドブック, 207-212, ヴァンメディカル, 東京, 2006.
- 70) 森兼啓太: IV-6 サーベイランスの種類. IV-7 NNISの診断基準. 奥住捷子, 小栗豊子(監修). 臨床微生物の基礎知識, 224-230, メディカ出版, 東京, 2006.
- 71) 森兼啓太: I-2 各国のMRSAの現状と対策. 河野茂(編集). MRSA-基礎・臨床・対策-, 24-29, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2006.
- 72) 阿保満: 東京都『症候群別サーベイランスシステム』の初期評価. 国立保健医療科学院, 健康危機管理分野, 特別論文, 2007.
- 73) 鈴木智之: バンコマイシン耐性腸球菌感染症の集団発生時におけるスクリーニング検査の実施モデル. 国立保健医療科学院, 健康危機管理分野, 特別論文, 2007.
- 74) 鷲見宏: 麻しんサーベイランスの届出方式・届出基準の検討 - 集団発生事例調査のデータに基づいて -. 国立保健医療科学院, 健康危機管理分野, 特別論文, 2007.
- 75) 徳田浩一, 多田有希, 安井良則, 岡部信彦: 溶連菌感染症サーベイランス. 小児科, 47(12):1849-1853, 2006.
- 76) 中島一敏: 麻疹-2012年排除(elimination)に向けて -. 小児科, 47(4):429-436, 2006.
- 77) 森山和郎, 登坂直規, 三村敬司, 都倉昭彦, 砂川富正, 中島一敏, 谷口清州, 岡部信彦: 山梨県A病院におけるVanB型バンコマイシン耐性腸球菌集団分離事

- 例. 環境感染, 21(3):168-174, 2006.
- 78) 木村幹男: 第 1 章 全身疾患に精神疾患が由来する病態, 18) 感染症, 5-1. 帰国者の感染症: マラリア. 症候性(器質性)精神障害の治療ガイドライン, 精神科治療学, 21(増刊号):134-135, 2006.
- 79) 木村幹男: 第 1 章 全身疾患に精神疾患が由来する病態, 18) 感染症, 5-2. 帰国者の感染症: その他(ウイルス性脳炎). 症候性(器質性)精神障害の治療ガイドライン, 精神科治療学, 21(増刊号):136-138, 2006.
- 80) 木村幹男: 実地医家が理解しておく外来における感染症, わが国の国際化に伴い問題となっている感染症 マラリア. メディカルダイジェスト, 55(6):44-52, 2006.
- 81) 木村幹男: トラベルメディスンと寄生虫疾患. 日本臨床寄生虫学会誌, 17:1-12, 2006.
- 82) 木村幹男, 波川京子: 日本の旅行者におけるマラリア予防. 病原微生物検出情報, 28:4-6, 2007.
- 83) 木村幹男: シリーズ・感染症との新たな闘い 海外旅行で注意すべき感染症への対応. 日本薬剤師会雑誌, 59:175-180, 2007.
- 84) 木村幹男: 感染症学各論 II. 感染症法分類 - 発症・病態・診断・治療 -, 四類感染症 マラリア. 新感染症学^下 - 新時代の基礎・臨床研究 -, 日本臨床, 65(増刊 3):236-240, 2007.
- 85) 木村幹男: ワクチンの最新事情と渡航者の接種. 連載を始めるに当たって. 日本医事新報, No.4316:65, 2007.
- 86) 木村幹男: 11 章 感染症, 赤痢アメーバ症. 大田健, 奈良信雄(編集). 今日の診断基準, 752-753, 南江堂, 2007.
- 87) 木村幹男: 11 章 感染症, トキソプラズマ症. 大田健, 奈良信雄(編集). 今日の診断基準, 754-755, 南江堂, 2007.
- 88) 木村幹男: 11 章 感染症, マラリア. 大田健, 奈良信雄(編集). 今日の診断基準, 756-757, 南江堂, 2007.
- 89) 多田有希: 予防接種の素朴な疑問に答えます - ワクチンで自閉症になるって本当? -. チャイルドヘルス, 9(12):28-32, 2006.
- 90) 多田有希: 冬の感染症 - 冬に流行する感染症~発生動向調査からみた流行のパターン~. チャイルドヘルス, 10(1):4-8, 2007.
- 91) 多田有希: トリとヒトにおける鳥インフルエンザ(H5N1)の現状 パート 1. 複十字, No.311:25, 2006.
- 92) 多田有希: トリとヒトにおける鳥インフルエンザ(H5N1)の現状 パート 2. 複十字, No.312:22, 2006.
- 93) 国立感染症研究所, 厚生労働省結核感染症課: 病原微生物検出情報, 月報 27 巻 4 号-28 巻 3 号, 2006-2007.
- 94) 予防医学事業中央会: ヒト由来病原体の検出数(統計のページ). 予防医学ジャーナル, Nos.416-427, 2006-2007.
- 95) 山下和予: 特集:インフルエンザ - 我が国のインフルエンザサーベイランス. 日本臨床, 64(10):1789-1794, 2006.
- 96) 安井良則, 柴田仙子, 飯盛順子: 堺市の保育所における麻疹、風疹の罹患状況とワクチン接種に関する調査. 病原微生物検出情報, 27:90-92, 2006.
- 97) 安井良則: 予防接種について. チャイルドヘルス, 9:333-337, 2006.
- 98) 安井良則: 堺市の保健所、幼稚園、小・中学校における水痘、ムンプス、麻疹、風疹の罹患状況とワクチン接種に関する調査について. チャイルドヘルス, 9(5):361-372, 2006.
- 99) 安井良則, 岡部信彦: 通常のインフルエンザの発生動向および鳥インフルエンザにおける疫学調査について. ウイルス, 56:67-76, 2006.
- 100) 安井良則: 水痘, 流行性耳下腺炎. 臨床と微生物, 33:691-697, 2006.
- 101) 安井良則, 上野久美, 岡部信彦: 平成 17/18 年(2005/06 シーズン)感染症発生動向調査からのインフルエンザ脳症報告について. 病原微生物検出情報, 27:307-308, 2006.
- 102) 安井良則: インフルエンザ流行の現状と対策. 治療学, 40:1289-1292, 2006.
- 103) 安井良則: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザの展望. 総合臨床, 55:2813-2818, 2006.
- 104) 上野久美, 多屋馨子: ワクチンで予防できる小児の感染症 ~ ワクチンの接種時期・注意点と麻疹をめぐる変化 ~. エキスパートナース, 22(11):24-26, 2006.
- 105) 上野久美: アウトブレイク. 院内感染, 1.VRE. 公衆衛生, 70(12): 967-970, 2006.
- 106) 上野久美, 多屋馨子: インターネットから得られる有用な感染症関連情報. 新感染症学(上) - 新時代の基礎・臨床研究 -, 日本臨床, 65(増刊 2):40-44, 2007.
- 107) 上野久美: ロタウイルスワクチンの現況. チャイルドヘルス, 10(1):30-31, 2007.
- 108) 新井智: 動物由来感染症. 新感染症学(上) - 新時代

- の基礎・臨床研究 - , 日本臨床, 65(増刊 2):27-33, 2007.
- 109) 多屋馨子: ワクチンの最新事情と渡航者の接種 ワクチン接種の免疫学. 日本医事新報, No.4323:91-97, 2007.
- 110) 多屋馨子: 五類感染症(定点把握)突発性発疹. 新感染症学(下) - 新時代の基礎・臨床研究 -, 日本臨床, 65(増刊 3): 349-354, 2007.
- 111) 多屋馨子: 2006年の麻疹流行と今後の麻疹対策について. 東京小児科医会, 25(3):61-63, 2007.
- 112) 多屋馨子: サイトメガロウイルス感染症. 感染症学総論 IV 慢性化、潜伏化、再発再燃の機序, 新感染症学(上) - 新時代の基礎・臨床研究 -, 日本臨床, 65(増刊 2):136-140, 2007.
- 113) 多屋馨子: 病態・治療 Q&A 水痘 水痘ワクチン接種の必要性についてお教えください(Q&A). 臨床のあゆみ, 71:14-15, 2007.
- 114) 多屋馨子, 奥野良信: 微生物学 インフルエンザワクチン接種後の副反応発現時間(Q&A). 日本医事新報, No.4320:132, 2007.
- 115) 馬場宏一, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友真佐美, 多屋馨子, 三田村敬子: 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 子育ての基本 育み、育まれた経験を次世代へ. 小児保健研究, 66(1):134-136, 2007.
- 116) 多屋馨子, 岡部信彦: 日本脳炎の現状と予防接種(Q&A). 日本医事新報, No.4313: 89-90, 2006.
- 117) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 社団法人日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 全国市町村の予防接種の実施状況 平成 18 年全国調査より. 小児保健研究, 65(6):814-821, 2006.
- 118) 住友真佐美, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 感染症・予防接種レター 予防接種制度の改正をめぐって. 小児保健研究, 65(6):846-847, 2006.
- 119) 多屋馨子: 【予防接種 2006】麻疹・風疹対策と MR ワクチン. 小児保健シリーズ, 60:6-12, 2006.
- 120) 堀内善信, 片岡紀代, 山本明彦, 落合雅樹, 永田典代, 豊泉裕美, 多屋馨子, 岡部信彦, 高橋元秀, 倉田毅: DPT 予防接種とワクチンを巡る現状と問題点. 臨床とウイルス, 34(4):306-318, 2006.
- 121) 多屋馨子: アウトブレイクとその対応 麻疹. 臨床と微生物, 33(増刊):657-660, 2006.
- 122) 多屋馨子: ICP として知っておくべきウイルス病 発疹および皮膚疾患を伴うウイルス感染症. 臨床と微生物, 33(増刊):603-610, 2006.
- 123) 古賀伸子, 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会: 予防接種と副反応. 小児保健研究, 65(5):698-699, 2006.
- 124) 多屋馨子: 2006年の関東地方での麻疹流行と麻疹対策. 小児科臨床, 59(9):2079-2084, 2006.
- 125) 多屋馨子: 麻疹風疹混合ワクチン(MR ワクチン), 麻疹ワクチン, 風疹ワクチンに関する定期予防接種スケジュールの改正. 臨床と微生物, 33(4):400-401, 2006.
- 126) 横田俊平, 多屋馨子, 岡部信彦: 米国「予防接種の実施に関する諮問委員会」Advisory Committee on Immunization Practices(ACIP)について わが国の予防接種プラン策定に新しいシステムの導入を. 日本小児科学会雑誌, 110(6):756-761, 2006.
- 127) 加藤達夫, 岡田賢司, 庵原俊昭, 宇加江進, 古賀伸子, 住友真佐美, 多屋馨子, 馬場宏一, 三田村敬子, 日本小児保健協会予防接種委員会: 北海道および札幌市の麻疹ゼロ作製について. 小児保健研究, 65(3):516-517, 2006.
- 128) 多屋馨子: 微生物学講座[1]ウイルス 麻疹. 感染制御, 2(2):139-143, 2006.
- 129) 多屋馨子: 麻しん風しん混合生ワクチン(MR ワクチン). 日本小児科学会, 日本小児保健協会, 日本小児科医会, 日本小児科連絡協議会ワーキンググループ(編集). 日本小児保健協会予防接種・感染症委員会委員長加藤達夫(監修). 予防接種のすべて 2006, 60-65, 日本小児医事出版社, 2006.
- 130) 多屋馨子: 予防接種のこつとポイント. 高原亮治, 中谷比呂樹(編). 現役行政医が書いた臨床公衆衛生ハンドブック, 154-157, 医療文化社, 東京, 2006.7.
- 131) 多屋馨子: 突発性発疹(HHV-6, HHV-7 感染症). 日野治子(編集). 第 2 版こどもの発疹のみかた急性発疹症へのアプローチ, 39-49, 中外医学社, 2006.
- 132) 多屋馨子: 予防接種、麻疹風疹混合ワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチン. 巷野悟郎(監修). たまひよ新・基本シリーズ 初めての育児, ひよこクラブ特別編集. 株式会社ベネッセコーポレーション, 2006.
- 133) 多屋馨子: 第 2 章注目される感染症 6.麻疹, 風疹, 水痘の病態と予防. 小池和彦・森屋恭爾, 猪狩淳(編集), 国立私立大学病院臨床検査技術者研修協議会編集協力. 臨床微生物学(感染症学)に関する基礎知

識. - 認定臨床微生物検査技師への道しるべ - 臨床病理レビュー特集号, 臨床検査 Year book 2006, 67-74, 2006.

- 134) 岡部信彦, 多屋馨子: 2006 予防接種に関する Q&A 集. 岡部信彦, 多屋馨子(監修). 社団法人細菌製剤協会. pp1-98, 2006.9.
- 135) 飯田真里子, 朝倉宏, 牧野壮一, 岡村登, 伊藤健一郎: 我が国における腸管病原性大腸菌 O157:H45 の付着関連遺伝子 *eae*, *EAF*, *bfpA* の保有状況. 感染症学雑誌, 80(5):531-533, 2006.
- 136) 野村裕子, 新井茉莉, 加藤直子, 森田幸雄, 木村博一, 中嶋隆: 市販の鶏挽肉から分離した *Sallmonella* の薬剤耐性遺伝子の接合伝達性. 医学と生物学, 150:281-286, 2006.
- 137) 木村博一, 森田幸雄, 太田郁朗, 高齋進也, 小澤邦壽: オゾン水による微生物の殺滅. 臨床と微生物, 33(3): 281-285, 2006.
- 138) 加藤政彦, 山口貴史, 鈴木雅登, 丸山健一, 林泰秀, 木村博一: ヒト好酸球および好中球の機能調節における protein kinase (PK) C-zeta の役割の相違. 呼吸, 25:S34- S35, 2006.
- 139) 木村博一, 野田雅博, 塚越博之, 加藤政彦: ウイルスの顕微鏡検査法と培養検査法. 臨床と微生物, 33:569-574, 2006.

学会発表

1. 国際学会

- 1) Morikane K: Surgical site infections surveillance for the decrease of SSI. The 10 th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases. Fukuoka, Japan, 2006.12.5.
- 2) Ohkusa Y, Sugawara T: Pandemic Plan in Japan and Enhanced Surveillance System. Healthy People. 2007, 2007.3.
- 3) Ohkusa Y, Kikuchi K, et al.: Examination of Syndromic Surveillance for Early Detection of Nosocomial Outbreaks. Syndromic Surveillance Conference. 2006.10.
- 4) Ohkusa Y, et al.: An Examination of Cost-Effectiveness Analysis of MS/MS New Born Screening in Japan. International Society for Neonatal Screening. 2006.9.
- 5) Ohkusa Y, Maeda H, et al.: Evaluation of Pandemic Plan using Individual Based Model. The Joint Meeting of Japan and Korea Biological Mathematics. 2006.9.
- 6) Ohkusa Y: Syndromic Surveillance during the FIFA World Cup 2002 in Japan and experiments thereafter, Preparing for Beijing 2008 Olympic Games. Workshop on Public Health Safety and Emerging Response. 2006.
- 7) Ohkusa Y, Sugawara T, Sugiura H, Kawaguchi Y, Shigematsu M, Taniguchi K, Okabe N: Experimental Syndromic Surveillance In Japan using Three Aspects: OTC, Outpatient Visits and Ambulance Transfer. 12th International Congress on Infectious Diseases. Lisbon, Portugy. 2006.6.
- 8) Ohkusa Y, Maeda H, Aihara K: Application of individual based model (ibm) to Pandemic Flu in Japan. Transmission Infectiousness Disease Modeling. 2006.2.
- 9) Ohkusa Y: Some Experimental Syndromic Surveillance in Japan for Early Detection on of Bioterrorism Attack. International Conference of Bioterrorism Attack, KCDC. 2006.12.
- 10) Ohkusa Y: Proposition of Real Data individual based model-Application to Pandemic Planning- Joint meeting of Imperial College, HPA and NIID. 2006.
- 11) Ohkusa Y: "Experimental Syndromic Surveillance in Japan". Joint Meeting with KCDC. 2006.9.
- 12) Abo M, et al.: Measles Outbreak in Junior and Senior High School, Ibaraki, Japan, 2006 (poster presentation). TEPHINET Global Scientific Conference. Brazil. 2006.
- 13) Kobayashi M, et al.: E. coli O157 VT1VT2 Outbreak in two nursing homes, Japan, 2005 (oral presentation). TEPHINET Global Scientific Conference. Brazil. 2006.
- 14) Ota M, et al.: Indigenously Acquired Cholera Cases ? Japan, 2000 January ? 2006 February (poster presentation). TEPHINET Global Scientific Conference. Brazil .2006.
- 15) Shigematsu M, Ohkusa Y, Taniguchi K: Two Years of Surveillance on Over-the-Counter Medication Sales Data in Japan. 12th International Congress on Infectious Diseases. Lisbon, Portugy. 2006.6.
- 16) Ando S, Shigematsu M, Ogawa M, Kishimoto T: Trend of Tsutsugamushi Disease in Japan. 12th International Congress on Infectious Diseases. Lisbon, Portugy. 2006.6.
- 17) Shigematsu M, Yamashita K, Okabe N: Travel Associated Shigellosis from the National Infectious Disease Surveillance in Japan, 1999-2005. 12th International Congress on Infectious Diseases. Lisbon, Portugy. 2006.6.
- 18) Takagi H, Shigematsu M, Taniguchi K, Tomita Y,

- Shinohara K, Sugiyama K: Efficacy of Common Detergents in SARS Coronavirus and Influenza Virus Disinfection. 12th International Congress on Infectious Diseases. Lisbon, Portugy. 2006.6.
- 19) Takagi H, Ito K, Shigematsu M, Shinohara K, Sugiyama K: The Handling Method and Training Plan for Sample Possibly Contaminated Anthrax Spore. 49th Annual American Biological Safety Association Meeting. Boston, USA. 2006.10.
- 20) Shigematsu M: Risk Assessment for Surveillance and Preparedness. The Third International Symposium on Transmission Models for Infectious Diseases. Kyoto, Japan. 2007.1.
- 21) Kawazoe A, Jin L, Shigematsu M, Barrero R, Taniguchi K, Collier N: The development of a schema for the annotation of terms in the BioCaster disease detecting/tracking system. KR-MED 2006 Second International Workshop on Formal Biomedical Knowledge Representation: "Biomedical Ontology in Action". Baltimore, USA. 2006.11.
- 22) Fujii T, Kaku K, Jelinek T, Kimura M: Malaria and mefloquine prophylaxis in Japan Ground Self Defense Force members deployed in East Timor for a peacekeeping operation. Northern European Conference on Travel Medicine. Edinburgh. 2006.
- 23) Namikawa K, Kikuchi H, Kato S, Takizawa Y, Konta A, Iida T, Kimura M: Problems of malaria prevention in Japanese travelers. Joint International Tropical Medicine Meeting 2006 and 6th Asia-Pacific Travel Health Conference. Bangkok. 2006.
- 24) Iyoda S, Saitoh T, Lu Y, Satou H, Shimuta K, Ohnishi M, Terajima J, Watanabe H: Coordinate expression of virulence-related genes under the control of GrIR/GrIA regulatory system in enterohemorrhagic *Escherichia coli*. THE 41ST JOINT CONFERENCE US - JAPAN COOPERATIVE MEDICAL SCIENCE PROGRAM CHOLERA PANEL. Gifu, Japan. 2006.11.
- 25) Lu Y, Iyoda S, Satou H, Satou H, Toma C, Saitoh T, Ohnishi M, Terajima J, Watanabe H: Identification and characterization of a new adhesion/immunoglobulin-binding protein, EibG, in LEE-negative Shiga-toxin producing *Escherichia coli*. THE 41ST JOINT CONFERENCE US - JAPAN COOPERATIVE MEDICAL SCIENCE PROGRAM CHOLERA PANEL. Gifu, Japan. 2006.11.
- 26) Iyoda S, Koizumi N, Satou H, Lu Y, Saitoh T, Ohnishi M, Watanabe H. The GrIR-GrIA regulatory system coordinately control the expression of flagellar and Lee-encoded type protein secretion systems in enterohemorrhagic *Escherichia coli*. 6th International Symposium on Shiga Toxin (Verocytotoxin) Producing *Escherichia coli* Infections. Australia. 2006.10.
- 27) Yasui Y: Infectious Disease Surveillance in Japan. The Third Workshop on Public Health –Emergency Strategy and Architecture in Public Health. Beijing. 2005.10.
- 28) Kato M, Kimura H, Saito M, Tsukagoshi H, Maruyama K, Hayashi Y, Kozawa K: Virus detection, cytokine response profiles, and eosinophil activation in acute exacerbation of childhood asthma. 2006 国際華夏医薬学学術大会. 中国,山東省,済南市. 2006.5.
- 29) Kato M, Yamaguchi T, Kozawa K, Kimura H: Interferon- γ enhances human eosinophil effector functions induced by Th2-type cytokines. 63th Annual meeting of American Academy of Allergy, Asthma and Immunology. San Diego, CA, USA. 2007.2.

2. 国内学会

- 1) 鈴木智之 他: 一般市民におけるウエストナイルウイルス感染症の認知状況とワクチン需要予測調査 (ポスター発表). 第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会合同大会. 長崎. 2006.
- 2) 大日康史: 日本の高齢者の超過死亡『シンポジウム9: インフルエンザに関する最近の話題』日本環境感染学会. 横浜市. 2007.2.
- 3) 大日康史, 川口行彦 他: パイオテロ対策としての救急車搬送における症候群サーベイランスの基礎的研究. 日本救急医学会関東地方会. 横浜市. 2007.2.
- 4) 大日康史: individual based model を用いての公衆衛生的対応能力を明示的に考慮した天然痘対策の評価. 感染症理論疫学研究大会. 東京. 2006.
- 5) 前田博志, 大日康史, 合原一幸: ibm を用いてのパンデミック対策の評価. 感染症理論疫学研究大会. 東京. 2006.
- 6) 大日康史: Report on “Modeling for Policy Analysis & Mobilization of Effective Responses to Asian Epidemics” 木原班班会議. 2006.5.
- 7) 大日康史: individual based model の感染症数理モデ

感染症情報センター

- ルへの応用. 生物数学の理論と応用. 2006.
- 8) 大日康史: アウトブレイク阻止対策: 日本における封じ込めと対応戦略の新しい知見. 中国の新興再興感染症アウトブレイク阻止対策に関するセミナー. 2006.8.
 - 9) 大日康史: 疑い症例調査支援システム・症候群サーベイランスのご紹介. 危機管理研修会. 2006.9.
 - 10) 菊池清, 大日康史 他: 院内感染対策としての入院患者症候群サーベイランスの検討. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「SARS、パイオテロ、インフルエンザ対策としてのリアルタイム・アウトブレイク・サーベイランスシステム構築のための基礎的研究」班会議. 2006.8.
 - 11) 杉浦弘明, 児玉和夫, 菊池清, 中山裕雄, 大日康史 他: 地域での感染症流行迅速把握のための外来受診時症候群サーベイランスの検討. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「SARS、パイオテロ、インフルエンザ対策としてのリアルタイム・アウトブレイク・サーベイランスシステム構築のための基礎的研究」班会議. 2006.8.
 - 12) 川口行彦, 大日康史 他: 救急車搬送おける症候群サーベイランスの基礎的研究. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「SARS、パイオテロ、インフルエンザ対策としてのリアルタイム・アウトブレイク・サーベイランスシステム構築のための基礎的研究」班会議. 2006.8.
 - 13) 大日康史: individual based model を用いた数理モデルの開発. 感染症情報センター研究ミーティング. 2006.8.
 - 14) 大日康史: アウトブレイク阻止対策: 日本における封じ込めと対応戦略の新しい知見. 中国の新興再興感染症アウトブレイク阻止対策に関するセミナー. 2006.8.
 - 15) 大日康史: individual based model を用いての公衆衛生的対応能力を明示的に考慮した天然痘対策の評価-昨年度のまとめと本年度の研究計画-. 平成18年度厚生労働科学研究費(新興・再興感染症研究事業)「生物テロに使用される可能性他の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究」(主任研究者: 佐多徹太郎国立感染症研究所感染病理部部長). 2006.7.
 - 16) 大日康史, 菅原民枝: 電子カルテを利用した症候群サーベイランスの試み. 医療インターネット協議会. 2006.6.
 - 17) 大日康史: 携帯電話を利用した症候群サーベイラ
スのご提案. ドコモ班班会議. 2006.6.
 - 18) 大日康史: Report on “Modeling for Policy Analysis & Mobilization of Effective Responses to Asian Epidemics” 平成18年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業. 2006.5.
 - 19) 谷口清州: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ. 平成18年度感染研市民公開講座. 東京. 2006.4.
 - 20) 谷口清州: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザの現状と対策. 関西感染症フォーラム. 大阪. 2006.6.
 - 21) 谷口清州: 夏の胃腸炎について. 東京小児科医会. 東京. 2006.6.
 - 22) 谷口清州: インフルエンザの現状と対策. 埼玉県産婦人科医会. 埼玉. 2006.9.
 - 23) 谷口清州: 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ. 第11回日本神経感染症学会総会. 津市. 2006.10.
 - 24) 谷口清州: 鳥インフルエンザの現況. 第8回国立大学付属病院感染対策協議会. 長野. 2006.10.
 - 25) 谷口清州: 鳥インフルエンザH5N1の現状と対策. 第57回日本呼吸器学会九州地方会総会. 福岡. 2006.11.
 - 26) 谷口清州: 新型インフルエンザに関する世界の動向. 近畿厚生局感染症危機管理研修会. 大阪. 2007.1.
 - 27) 谷口清州: 新型インフルエンザの動向. 全国消防大会. 大宮. 2007.1.
 - 28) 谷口清州: 平成18年度日本獣医師会学会年次大会. さいたま市. 2007.2.
 - 29) 谷口清州: Application of GIS in Infectious Disease Control. GIS国際シンポジウム. 新潟. 2007.3.
 - 30) 松井珠乃, 佐藤弘, 岡部信彦, 安藤秀二, 岸本寿男, 坂崎善門, 尹浩信: 熊本県内の皮膚科医におけるつつが虫病・日本紅斑熱サーベイランス. 第190回日本皮膚科学会熊本地方会. 2006.12.
 - 31) 森兼啓太: 周術期感染を減らそう! - その対策の根拠と実際 (講演). 横浜市立みなと赤十字病院院内感染予防対策講演会. 横浜市. 2006.4.13.
 - 32) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランス (シンポジウム) 第80回日本感染症学会総会. 東京. 2006.4.21.
 - 33) 森兼啓太: 鳥インフルエンザの動向と感染リスクへの対応 (講演). 東京商工会議所第570回常議員会. 東京. 2006.5.11.
 - 34) 森兼啓太: ガイドラインとサーベイランスで手術部位感染を減らそう! (講演). 香川大学感染対策セミナー. 高松市. 2006.5.13.
 - 35) 森兼啓太: 最近の院内感染対策の潮流: 耐性菌対策

感染症情報センター

- とサーベイランス（特別講演）. 新潟大学病院感染対策講習会. 新潟市. 2006.5.29.
- 36) 森兼啓太: 新型インフルエンザ（講演）. 川越市新型インフルエンザ対策検討会. 川越市. 2006.5.30.
- 37) 森兼啓太: 手術部位感染の減少に向けて - ガイドラインとサーベイランスの意義（講演）. 第2回北里大学手術部位感染セミナー. 相模原市. 2006.6.2.
- 38) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランスの意義：外科医の立場から（講演）. 済生会吹田病院 SSI 講習会. 吹田市. 2006.6.29.
- 39) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスの重要性（特別講演）. 神戸地区感染対策セミナー. 神戸市. 2006.7.1.
- 40) 森兼啓太: 院内感染対策の最近の潮流：厚労省とアメリカ CDC の動向（講演）. 山口大学医学部・院内感染対策研修会. 宇部市. 2006.7.11.
- 41) 森兼啓太: 手術部位感染の減少を目指して - サーベイランスとガイドラインの意義（講演）. 武蔵野赤十字病院・院内講演会. 武蔵野市. 2006.7.14.
- 42) 森兼啓太: 院内感染サーベイランスの重要性（講演）. 東京都立墨東病院院内講演会. 江東区. 2006.7.20.
- 43) 森兼啓太: アメリカ合衆国の感染制御 - 先進国としての栄光と苦悩（講演）. 第16回院内感染防止対策に関する講演会. 福岡市. 2006.7.22.
- 44) 森兼啓太: SSI 防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス（講演）. 荏原病院院内感染予防対策講演会. 東京. 2006.7.27.
- 45) 森兼啓太: 最近の院内感染対策の潮流（特別講演）. 北東北感染症対策フォーラム 2006. 盛岡市. 2006.7.29.
- 46) 森兼啓太: アウトブレイク発生！. 第3回新潟地区感染対策セミナー（講演）. 新潟市. 2006.8.5.
- 47) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランスの実際とその効果（講演）. 愛媛県立中央病院院内感染防止対策講演会. 松山市. 2006.8.10.
- 48) 森兼啓太: 最近の院内感染対策の潮流 - ガイドラインとサーベイランス（特別講演）. 第8回ひがし東京 ICT 研究会. 東京. 2006.8.24.
- 49) 森兼啓太: 手術部位感染の減少を目指して（講演）. 第9回北海道心臓の会. 札幌市. 2006.8.25.
- 50) 森兼啓太: SSI 総論（講演）. 第14回中国四国地区日本外科学会生涯教育セミナー. 岡山市. 2006.8.31.
- 51) 森兼啓太: 手術部位感染対策とサーベイランス（講演）. ベルランド総合病院感染防止委員会講演会. 堺市. 2006.9.2.
- 52) 森兼啓太: 最新の感染症事情（講演）. 第9回感染症予防歯科衛生士講習会. 松山市. 2006.9.3.
- 53) 森兼啓太: 新型インフルエンザ（講演）. 日本医師会生涯教育講座. 甲府市. 2006.9.9.
- 54) 森兼啓太: 手術部位感染サーベイランス：日米の相違点（講演）. 第17回関西感染予防ネットワーク例会. 大阪市. 2006.9.16.
- 55) 森兼啓太: 最近の院内感染対策の潮流 - 耐性菌対策とサーベイランス（特別講演）. 第5回山形県インフェクションコントロール研究会. 山形市. 2006.9.23.
- 56) 森兼啓太: 感染症と感染予防（講演）. エクセレントケア志津施設内研修会. 佐倉市. 2006.9.27.
- 57) 森兼啓太: SSI 防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス（講演）. 長崎県 SSI 防止フォーラム. 長崎市. 2006.10.6.
- 58) 森兼啓太: 隔離予防策ガイドラインの改訂（特別講演）. 多摩地区感染対策セミナー. 立川市. 2006.10.7.
- 59) 森兼啓太: 病院感染サーベイランスの重要性（特別講演）. 第3回四国地区感染対策セミナー. 松山市. 2006.10.8.
- 60) 森兼啓太: アウトブレイク発生！あなたはどう考え、どう対応しますか？（講演）. 藤田保健衛生大学病院感染対策研修会. 豊明市. 2006.10.17.
- 61) 森兼啓太: 最新の SSI サーベイランス集計結果（口演）. 第8回 SSI サーベイランス研究会. 大阪市. 2006.11.1.
- 62) 森兼啓太: 医療施設における新型インフルエンザ対策（講演）. 福岡県院内感染防止対策研修会. 福岡市. 2006.11.8.
- 63) 森兼啓太: 感染症とその予防・対策（講演）. 川越市感染症予防研修会. 川越市. 2006.11.10.
- 64) 森兼啓太: 鳥インフルエンザ - 新型インフルエンザ大流行の序章か - （講演）. 岐阜県医師会感染症講演会. 岐阜市. 2006.11.11.
- 65) 森兼啓太: 手術部位感染：その防止対策とサーベイランス. 東京臨海病院感染防止委員会講演会（講演）. 東京. 2006.11.16.
- 66) 森兼啓太: アメリカ合衆国における感染制御・CDC の果たす役割（講演）. 第5回東アジア感染制御カンファランス. 東京. 2006.11.18.
- 67) 森兼啓太: 感染症の予防・対策（講演）. 神奈川県平塚保健福祉事務所感染症研修会. 平塚市. 2006.11.24.
- 68) 森兼啓太: 手術部位感染と最新の感染対策事情（講

- 演)。亀田総合病院感染対策教育講演会。鴨川市。2006.11.28.
- 69) 森兼啓太: ガイドラインとサーベイランスで手術部位感染を減らそう! (特別講演)。第9回石川感染対策フォーラム。金沢市。2006.12.2.
- 70) 森兼啓太: 感染症とその予防・対策(講演)。川崎市中原区保健福祉センター講演会。川崎市。2006.12.15.
- 71) 森兼啓太: SSI 防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス(講演)。東北 SSI 対策セミナー。仙台市。2007.1.19.
- 72) 森兼啓太: SSI 防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス(講演)。久留米大学 SSI 防止フォーラム。久留米市。2007.2.8.
- 73) 森兼啓太: 感染対策 - 最近の話題: MRSA 対策とインフルエンザ(講演)。千葉県感染対策セミナー。千葉市。2007.2.10.
- 74) 森兼啓太: 周術期の予防的抗菌薬の使い方(講演)。島根県立中央病院院内感染対策研修会。出雲市。2007.2.16.
- 75) 森兼啓太: 手術部位感染防止のグローバルスタンダード - ガイドラインとサーベイランス(特別講演)。第9回島根院内感染対策研究会。出雲市。2007.2.17.
- 76) 森兼啓太: 新型を視野に入れたインフルエンザの感染対策(シンポジウム)。第22回日本環境感染学会総会。横浜市。2007.2.23.
- 77) 森兼啓太: CDC ガイドライン最近の潮流: 改訂隔離予防策のガイドラインその後(講演)。第22回日本環境感染学会総会。横浜市。2007.2.23.
- 78) 森兼啓太: 欧米諸国にみる感染対策の現状と日本での応用: MRSA 耐性率が高いアメリカの状況(特別討論)。第22回日本環境感染学会総会。横浜市。2007.2.24.
- 79) 森兼啓太: 末梢静脈留置型中心静脈カテーテルと従来の中心静脈カテーテルの使用状況に関する調査(口演)。横浜市。2007.2.24.
- 80) 森兼啓太: NNIS から NHSN へ(講演)。第9回 SSI サーベイランス研究会。横浜市。2007.2.24.
- 81) 森兼啓太: 病院感染制御に関する最近の潮流(講演)。JICSA 感染管理セミナー。福岡市。2007.3.3.
- 82) 森兼啓太: 手術部位感染防止対策とサーベイランスの実際(講演)。聖路加国際病院 QI 勉強会。東京。2007.3.7.
- 83) 川添愛, 金麗華, 重松美加, ロベルト・バレロ, 谷口清州, ナイジェル・コリアー: 感染症発見/監視システム BioCaster における専門用語アノテーションスキーマの構築。第13回セマンティックウェブとオントロジー研究会。横浜。2006.7.
- 84) 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 泉田美知子, 永井正規, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討 第1報 警報・注意報の発生状況。第65回日本公衆衛生学会総会。富山。2006.10.
- 85) 川戸美由紀, 橋本修二, 村上義孝, 泉田美知子, 永井正規, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討 第2報 全国罹患数推計値の推移。第65回日本公衆衛生学会総会。富山。2006.10.
- 86) 泉田美知子, 永井正規, 橋本修二, 川戸美由紀, 村上義孝, 多田有希, 重松美加, 安井良則, 谷口清州: 感染症発生動向調査に基づく検討 第3報 基幹定点把握対象疾患の流行状況。第65回日本公衆衛生学会総会。富山。2006.10.
- 87) 高橋華子, 足立拓也, 相楽裕子, 木村幹男: Geo Sentinel (国際旅行医学会および米国 CDC による旅行/熱帯医学の世界的サーベイランスネットワーク)に参加して。第80回日本感染症学会総会。東京。2006.4.
- 88) 木村幹男: 教育講演「トラベルメディスンと寄生虫疾患」。第17回日本臨床寄生虫学会。東京。2006.6.
- 89) 藤井達也, 木村幹男: シンポジウム-2「海外渡航者のマラリア予防」3. 自衛隊での対応。第17回日本臨床寄生虫学会。東京。2006.6.
- 90) 木村幹男, 中村哲也, 名和行文: 「熱帯病治療薬研究班(略称)」の役割。第10回日本渡航医学会学術集会。東京。2006.7.
- 91) 波川京子, 木村幹男, 菊池均, 加藤成生, 滝沢慶彦, 今田明博, 飯田忠行: 日本人渡航者のマラリア流行地に対する危険性の認識と予防行動。第10回日本渡航医学会学術集会。東京。2006.7.
- 92) 木村幹男: ワークショップ 13. 「旅行医学」 旅行医学における特徴とジレンマ。第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会・合同大会。2006.
- 93) 木村幹男: 感染症アップデート。マラリア。第55回日本感染症学会東日本地方会総会・第53回日本化学療法学会東日本支部総会・合同学会。2006.
- 94) 木村幹男: 特別講演。海外渡航者のための感染症。

感染症情報センター

- 第 46 回日本衛生動物学会東日本支部例会. 2006.
- 95) 安井良則: インフルエンザ (鳥インフルエンザと新型インフルエンザ). 大阪市保健所研修会. 2006.4.
- 96) 安井良則: インフルエンザ (鳥インフルエンザと新型インフルエンザ). 加古川商工会議所研修会. 2006.4.
- 97) 安井良則: 麻疹 (はしか) 対策について. 茨城県竜ヶ崎保健所研修会. 2006.5.
- 98) 安井良則: 乳幼児の集団生活施設における感染症対策について. 美原西保育所研修会. 2006.6.
- 99) 安井良則: 2005/2006 年シーズンインフルエンザの国内における流行状況について. 日本臨床ウイルス学会. 東京. 2006.6.
- 100) 安井良則: 乳幼児の集団生活施設における感染症対策について. 平成 18 年度保育所保健・衛生専門研修会. 2006.7.
- 101) 安井良則: 児童の集団生活施設における感染症対策について. 児童の集団生活施設における感染症対策について. 2006.7.
- 102) 安井良則: 新型インフルエンザの現状と今後の見通し. 杏林大学医学部附属病院研修会. 2006.7.
- 103) 安井良則: 乳幼児の集団生活施設における感染症対策について. 愛媛県保育協議会研修会. 2006.7.
- 104) 安井良則: 堺市におけるセラチア院内感染事例発生時の対応について. 北海道保健所健康危機管理機能強化研修会. 2006.8.
- 105) 安井良則: インフルエンザ - 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ -. 北海道保健所健康危機管理機能強化研修会. 2006.8.
- 106) 安井良則: 鳥インフルエンザ・新型インフルエンザとその対策について. 世田谷区保健所研修会. 2006.8.
- 107) 安井良則: 2006 年度の関東地区を中心とした麻疹流行状況について. 茨城県県南地区麻疹対策勉強会. 2006.9.
- 108) 安井良則: 鳥及び新型インフルエンザの現状について. 千葉県健康危機管理対策委員会. 2006.9.
- 109) 安井良則: 鳥インフルエンザ等の対策について. 全国産業安全衛生大会. 新潟. 2006.9.
- 110) 安井良則: H5N1 インフルエンザ (特に積極的疫学調査) について. 横浜市行政医師研修会. 2006.9.
- 111) 安井良則: H5N1 インフルエンザ積極的疫学調査について. 感染症情報センター危機管理研修会. 2006.9.
- 112) 安井良則: 我が国の感染症サーベイランスについて. 第 47 回日本熱帯医学会. 長崎. 2006.10.
- 113) 安井良則: 高齢者施設における感染症. 川越市保健所研修会. 2006.10.
- 114) 安井良則: 鳥インフルエンザ・新型インフルエンザの現状とその対策について. 埼玉県入間西保健福祉総合センター研修会. 2006.10.
- 115) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 兵庫県・兵庫県医師会研修会. 2006.10.
- 116) 安井良則: 感染症発生動向調査による麻疹の発生動向について. 第 10 回日本ワクチン学会学術集会. 大阪. 2006.10.
- 117) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 堺市内科医会学術講演会. 2006.10.
- 118) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 尼崎市医師会内科医会学術講演会. 2006.11.
- 119) 安井良則: 障害児施設におけるインフルエンザの発生動向の調査研究について. 第 38 回日本小児感染症学会学術総会. 高知. 2006.11.
- 120) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について (消毒薬等を含めて). 山口県健康福祉部研修会. 2006.11.
- 121) 安井良則: ノロウイルス感染症、インフルエンザ、& 麻疹と MR ワクチン. 堺市保育園囑託医会. 2006.11.
- 122) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 御坊保健医療圏健康危機管理協議会. 2006.12.
- 123) 安井良則: インフルエンザに関する新しい話題. 兵庫県小児疾患懇話会. 2006.12.
- 124) 安井良則: 水と空気を媒介する感染症について. 特別区環境衛生監視研修会. 2006.12.
- 125) 安井良則: ノロウイルス感染症 & インフルエンザ. 福山市市民公開講座. 2007.1.
- 126) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 大阪小児感染症免疫カンファレンス. 2007.1.
- 127) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 横浜市衛生研究所衛生技術研修会. 2007.1.
- 128) 安井良則: インフルエンザの最新の知識. 日本医工学治療学会. 大阪. 2007.2.
- 129) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 山口県新型インフルエンザ研修会. 2007.2.

- 130) 安井良則: 保育所における感染症対策. 保育所保育・保健推進セミナー, 日本保育協会, 東京. 2007.2.
- 131) 安井良則: 保育所における感染症対策. 保育所保育・保健推進セミナー, 日本保育協会, 大阪. 2007.3.
- 132) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 堺市新型インフルエンザ対策会議. 2007.3.
- 133) 安井良則: ノロウイルス感染症 & 新型インフルエンザ. 近畿中央胸部疾患センター研修会. 大阪. 2007.3.
- 134) 安井良則: 鳥および新型インフルエンザの現状と対策について. 藤沢市保健所研修会. 2007.3.
- 135) 安井良則: 感染症法改正並びに新型インフルエンザについて. 堺市感染症研修会. 2007.3.
- 136) 多田有希, 谷口清州, 岡部信彦: 感染症発生動向調査データの正確性の検討 - 突発性発疹における医療機関記載ミスと保健所入力ミスに関する調査 -. 第 38 回日本小児感染症学会総会・学術集会. 高知市. 2006.11.10.
- 137) 多田有希: 感染症発生動向調査データの正確性の検討 - 突発性発疹における調査の報告 -. 第 20 回公衆衛生情報研究協議会研究会. 香川. 2007.2.16.
- 138) 齊藤剛仁, 伊豫田淳, 陸彦, 志牟田健, 大西真, 寺嶋淳, 渡邊治雄: 腸管出血性大腸菌におけるエンテロヘモリシンの発現制御機構. 第80回日本細菌学会総会. 大阪. 2007.3.26-28.
- 139) 伊豫田淳, 齊藤剛仁, 石原朋子, 小泉信夫, 志牟田健, 陸彦, 大西真, 寺嶋淳, 渡邊治雄: 腸管出血性大腸菌の GrlR-GrlA 制御システムによる病原性関連遺伝子群の協調発現機構. 第 80 回日本細菌学会総会. 大阪. 2007.3.26-28.
- 140) 上野久美, 佐藤弘, 多屋馨子, 岡部信彦: 水痘ワクチンに伴う水痘-帯状疱疹ウイルスに対する血清抗体価陽性率の推移に関する検討. 第 47 回臨床ウイルス学会. 港区. 2006.6.
- 141) 上野久美, 大日康史, 菅原民枝, 多屋馨子, 安井良則, 西藤なるを, 砂川富正, 岡部信彦: 「麻疹発生データベース」による全国麻疹発生状況報告. 第 10 回日本ワクチン学会. 泉佐野市. 2006.10.
- 142) 上野久美, 佐藤弘, 多屋馨子, 岡部信彦: 小児における水痘-帯状疱疹ウイルスに対する血清抗体陽性率と水痘ワクチン導入の影響に関する検討. 第 38 回小児感染症学会. 高知市. 2006.11.
- 143) 佐藤弘, 多屋馨子, 小田切孝人, 田代真人, 岡部信彦: 感染症流行予測調査事業担当者グループ「2005/2006 シーズン前インフルエンザ抗体保有状況 (2005 年度感染症流行予測調査事業より)」. 第 47 回日本臨床ウイルス学会. 港区. 2006.6.
- 144) 佐藤弘, 多屋馨子, 海野幸子, 田代真人, 岡部信彦: 感染症流行予測調査事業担当者グループ「わが国における麻疹及び風疹に対する抗体保有状況 (2005 年度感染症流行予測調査事業より)」. 第 10 回日本ワクチン学会. 泉佐野市. 2006.10.
- 145) 佐藤弘, 多屋馨子, 岡部信彦: 麻疹の抗体測定法による比較検討及びその臨床応用について. 第 38 回日本小児感染症学会. 高知市. 2006.11.
- 146) 荒木和子, 元明秀成, 多屋馨子, 岡部信彦: 最近のエコー16 株の性状について. 第 47 回臨床ウイルス学会. 東京. 2006.6.
- 147) 荒木和子, 多屋馨子, 岡部信彦: OPV 初回接種後のウイルスの排出 —Real-time PCR による経時的血清型別ポリオウイルスの検出—. 第 10 回ワクチン学会. 大阪. 2006.10.
- 148) 多屋馨子: 最近の予防接種の話題. 笛吹市医師会学術講演会. 山梨. 2007.3.
- 149) 多屋馨子: MR 2 回予防接種について. 北部地区はしが“ 0 ”プロジェクト会議. 沖縄. 2007.3.
- 150) 多屋馨子: ワクチン全般のトピックス～日脳ワクチン・MR ワクチン・水痘ワクチンを中心に～. 静岡市清水小児科医会「四季の会」. 静岡. 2007.2.
- 151) 多屋馨子: 保育園の感染症について. 東社協保育士会保健部会学習会. 豊島区. 2007.2.
- 152) 多屋馨子: 海外勤務者の予防接種と予防接種時のトラブルについて - 予防接種に関する最近の話題を含めて -. 大阪府医師会平成 18 年度 予防接種に関する研修会. 大阪市. 2007.2.
- 153) 多屋馨子: 麻疹の現状と麻疹対策の実際. 第 26 回感染・免疫懇話集談会 講演会. 葛飾区. 2007.2.
- 154) 多屋馨子: 2006 年の麻疹流行とウイルス感染症のトピックス. 第 1 回大阪小児感染免疫カンファレンス. 大阪市. 2007.1.
- 155) 多屋馨子: 保育園児の感染症 現況と対応 感染症と乳幼児. 第 18 回全国保育園保健研究大会. 長崎. 2007.1.
- 156) 多屋馨子: ワクチンに関する最近の話題. 第 544 回日本小児科学会東京都地方会講話会. 北区. 2007.1.
- 157) 多屋馨子: ウイルス感染の予防 - ワクチンの有効性 -. 第 11 回茨城感染対策研究会. 茨城. 2006.12.
- 158) 多屋馨子: 予防接種に関する最近の話題. 習志野市医師会・小児科医会・予防接種委員会研修会. 千葉.

感染症情報センター

- 2006.12.
- 159) 多屋馨子: 院内感染対策としてのワクチン(各論). 第38回日本小児感染症学会総会時第41回ICD講習会. 高知. 2006.11.
- 160) 多屋馨子: ウイルス感染症の院内感染対策および最新情報. 社団法人埼玉県臨床検査技師会研修会. 埼玉. 2006.11.
- 161) 多屋馨子: 予防接種の最新情報. 平成18年度奈良県予防接種研修会. 奈良. 2006.11.
- 162) 多屋馨子: 国内の麻疹・風疹の現状とMR混合ワクチンについて. ワクチンで予防可能な小児の感染症と予防接種の効果と必要性、地域の感染症予防(流行阻止)を目的としたワクチン接種率向上について. 平成18年度岩手県市町村等予防接種従事者研修会, 感染症予防対策に関する基礎研究に基づく研修会. 岩手. 2006.11.
- 163) 多屋馨子, 佐藤弘, 上野久美, 荒木和子, 吉川哲史, 中野貴司, 庵原俊昭, 堤裕幸, 浅野喜造, 神谷齊, 岡部信彦: 水痘・带状疱疹・ムンプス入院例に関する検討～全国アンケート調査第二報～. 第10回日本ワクチン学会. 大阪. 2006.10.
- 164) 多屋馨子: ワクチン全般のトピックス～日脳ワクチンの現状と展望を含めて～. 第91回 静岡市静岡小児科医会臨床懇話会. 静岡. 2006.10.
- 165) 多屋馨子: 院内ウイルス感染対策. 平成18年度院内感染対策講習会. 横浜市. 2006.10.
- 166) 多屋馨子: 最新の感染症について. 川崎市保育内容研究部会(看護師研究部会). 川崎市. 2006.9.
- 167) 多屋馨子: 保育園児の感染症～現況と対応～感染症と乳幼児. 第12回 日本保育園保健学会. サテライトシンポジウム. 大阪. 2006.9.
- 168) 多屋馨子: 麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘とワクチン療法. 第26回 呼吸器感染症京都セミナー. 京都. 2006.9.
- 169) 多屋馨子: 感染症だより麻疹～第539回(5月13日) 地方会後～. 第541回日本小児科学会東京都地方会講話会. 北区. 2006.9.
- 170) 多屋馨子: 血清疫学調査の有用性と vaccine preventable disease 対策～感染症流行予測調査より～. 平成18年度 地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会. 大阪. 2006.9.
- 171) 多屋馨子: 予防接種に関する最近の話題. 平成18年度福井県予防接種研修会. 福井市. 2006.8.
- 172) 多屋馨子: 水痘ワクチン接種の展望 水痘・带状疱疹の疫学の変化. 第13回ヘルペス感染症フォーラム JHIF. 札幌市. 2006.8.
- 173) 多屋馨子: 保健管理に関する指導の充実～感染症の理解と学校における対応～. 平成18年度選択課題研修保健室経営 A. 東京都教職員研修会. 文京区. 2006.8.
- 174) 多屋馨子: 予防接種、今後の動向 麻疹・風疹・日本脳炎. 野田市医師会学術講演会. 千葉. 2006.7.
- 175) 多屋馨子: ー今、麻疹を見直すー地域社会で流行への対応はどう取り組むかー茨城と千葉の麻疹の流行に学ぶー. 出雲小児科医会、出雲医師会、出雲保健所共催「麻疹予防対策」研修会. 島根. 2006.7.
- 176) 多屋馨子: 小児期の感染症と予防接種. 大阪新興・再興感染症研究会主催平成18年度感染症・予防接種研修会. 大阪. 2006.7.
- 177) 多屋馨子: 予防接種に関する最近のトピックス～麻疹を中心に～. 豊橋内科医会・豊橋小児科医会合同学術講演会. 愛知. 2006.7.
- 178) 多屋馨子: 茨城県南地域の麻疹流行と麻疹対策. 茨城県麻疹対策会議(講演会). 茨城. 2006.6.
- 179) 多屋馨子: 麻疹・風疹対策とMRワクチン. 予防接種2006. 第23回小児保健セミナー. 渋谷区. 2006.6.
- 180) 多屋馨子: 麻疹の流行とその対策. 千葉市医師会緊急麻疹(はしか)対策講演会. 千葉. 2006.6.
- 181) 多屋馨子, 佐藤弘, 海野幸子, 田代真人, 岡部信彦: わが国の麻疹、風疹ワクチン接種率と抗体保有率の推移 2004年度感染症流行予測調査事業より. 第47回日本臨床ウイルス学会. 港区. 2006.6.
- 182) 多屋馨子: 感染症だより、茨城県南部、千葉県における麻疹流行. 第538回日本小児科学会東京都地方会講話会. 北区. 2006.5.
- 183) 多屋馨子: 茨城県南部、千葉県における麻疹流行とその対策～なぜこのような現象が起きるか～. 第23回葛飾区感染・免疫懇話集談会総務部・危機管理共催講演会. 葛飾区. 2006.5.
- 184) 多屋馨子: 学校における感染症の予防と対応について. 東京学校保健研究会. 渋谷区. 2006.5.
- 185) 多屋馨子, 上野久美, 中島一敏, 大山卓昭, 松井珠乃, 阿保満, 鷲見宏, 鈴木智之, 岡部信彦: 茨城県南部における麻疹流行とその対策. 竜ヶ崎保健所管内医師対象研修会. 茨城. 2006.5.
- 186) 多屋馨子: 予防接種に関する最近の話題. 三市合同医師会講演会(立川市医師会、国立市医師会、昭島市医師会) 予防接種学術講演会. 立川市. 2006.4.
- 187) 飯田真里子, 岡村登, 伊藤健一郎: 腸管病原性大腸菌の付着関連遺伝子 bfpA の分布と多型解析. 第80

- 回日本感染症学会総会. 東京. 2006.4.
- 188) 岩崎友美, 森田耕司, 渡辺登, 金森政人, 倉園貴至, 山口正則, 鈴木理恵子, 沖津忠行, 伊藤健一郎: cesT 遺伝子型別による志賀毒素産生大腸菌 O157:H7 の迅速診断. 第 80 回日本感染症学会総会. 東京. 2006.4.
- 189) 木村博一: 産官共同プロジェクト『ウイルスウォッシャー』の開発. 群馬県産官共同研究成果発表会. 群馬. 2006.4.
- 190) 加藤政彦, 戸所誠, 丸山健一, 林泰秀, 木村博一, 齋藤美香, 塚越博之, 小澤邦壽: 気管支喘息発作時の原因ウイルスの同定とサイトカイン産生および好酸球活性化の検討. 第 109 回日本小児科学会学術集会. 金沢市. 2006.4.
- 191) 加藤政彦, 齋藤美香, 塚越博之, 星野利得, 小澤邦壽, 戸所誠, 丸山健一, 林泰秀, 木村博一: 小児気管支喘息発作時の原因ウイルスの同定とサイトカイン産生および好酸球活性化の検討. アレルギー・好酸球研究会 2006. 東京. 2006.6.
- 192) 加藤政彦, 木村博一, 鈴木雅登, 齋藤美香, 塚越博之, 小澤邦壽, 戸所誠, 丸山健一, 林泰秀: 小児気管支喘息発作時の原因ウイルスの同定とサイトカイン産生および好酸球活性化. Airway Club in Sendai 第 15 回研究会. 仙台市. 2006.9.
- 193) Boonmar S, Padungtod P, 森田幸雄, Kaneene J, Hanson R, 加藤政彦, 木村博一, 小澤邦壽: Antimicrobial restriction in *Campylobacter* isolated from food animals and humans in northern Thailand. 第 27 回日本食品微生物学会. 堺市. 2006.9.
- 194) 新井隆三, 阿部慎之介, 池田典子, 外丸仁, 摩庭美智子, 高齋進也, 摩庭秀利, 森田幸雄, 藤田雅弘, 加藤政彦, 木村博一, 小澤邦壽: オゾン水を用いた食品製造施設内環境の殺菌効果. 第 27 回日本食品微生物学会. 堺市. 2006.9.
- 195) 木村博一: 実学的ウイルス学. 三洋電機学術講演会. 群馬. 2006.12.
- 196) 塚越博之, 加藤政彦, 木村博一, 瀧守, 宮下喜好, 高橋仁恵, 仁科淳良: 新しいセレン化合物の薬理学的作用に関する研究. 群馬県分析研究会第 31 回研究発表会. 前橋市. 2007.1.
- 197) 木村博一: 有機リンの慢性毒性について - 文献的考察 -. 有機リン・シックハウス症候群の最前線 (群馬県主催). 前橋市. 2007.1.
- 198) 木村博一: 呼吸器ウイルス感染症と感染喘息. 新型インフルエンザ対策セミナー(東京サラヤ株式会社主催). 東京. 2007.2.
- 199) 木村博一: パイオセーフティとウイルス検査の基礎. 日本冷凍食品検査協会研修会. 東京. 2007.3.
- 200) 木村博一: ノロウイルスの最近の動向. 埼玉県新興再興感染症研修会. さいたま市. 2007.3.
- その他**
- 1) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. WHO 感染確定症例数.
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-case.html.
 - 2) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. WHO 更新情報.
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-whoup.html.
 - 3) 感染症情報センター: 高病原性鳥インフルエンザ. 新着情報.
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html.
 - 4) 感染症情報センター: トリインフルエンザの分布図, 2006.4-2007.3.
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-map.html.
 - 5) 感染症情報センター: インフルエンザ Q & A 「一般向け」・「医療従事者向け」. (平成 17、18 年度版), 2005-2006.11.
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html>.
 - 6) 感染症情報センター: インフルエンザパンデミック WHO による情報. ガイドライン, 2005.6.4-2007.3.
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/pandemic-who.html>.
 - 7) 佐藤弘, 北本理恵, 多屋馨子: プタの日本脳炎 HI 抗体保有状況 (速報). 第 1 報:2006.6.19, 第 18 報 (最終報). 2006.11.25.
<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/JE/JEmenu.html>.
 - 8) 佐藤弘, 北本理恵, 多屋馨子: 流行シーズン前インフルエンザ HI 抗体保有状況 (速報). 第 1 報:2006.11.30, 第 4 報 (最終報):2007.2.13.
<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flu/Flumenu.html>.
 - 9) 松岡静香, 多屋馨子, 佐藤弘, 上野久美, 岡部信彦: 日本の定期 / 任意予防接種スケジュール (2006.4.1-6.1).
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/ImmJP-06rev1.gif>

- 10) 松岡静香, 多屋馨子, 佐藤 弘, 上野久美, 岡部信彦:
日本の定期/任意予防接種スケジュール(2006.6.2以降).
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/Imm06JP-rev3.gif>
- 11) 松岡静香, 多屋馨子, 岡部信彦: 麻疹ワクチンキャンペーンポスター.
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn04/birthday-poster2007.pdf>
- 12) 松岡静香, 多屋馨子, 上野久美, 岡部信彦: 麻疹・風疹ワクチンキャンペーンポスター.
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn07/2008vaccine-poster.pdf>
- 13) 国立感染症研究所感染症情報センター: 医療機関での麻疹対応について(初版).
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/mhosp-ver1.pdf>.
2006.5.24.
- 14) 竜ヶ崎保健所, 国立感染症研究所感染症情報センター(監修): 保育所・幼稚園・学校等における麻疹患者発生時の対応マニュアル. 2006.10.18改訂.
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/taiou0610.pdf>